

タイトル	スロバキアにおけるホロコーストとその歴史認識
著者	木村, 和範; KIMURA, Kazunori
引用	北海学園大学学園論集(194): 1-38
発行日	2024-07-25

# スロバキアにおけるホロコーストとその歴史認識

木 村 和 範

構 成

はじめに

1. 反ユダヤ主義の4類型
  - (1) 宗教レベル
  - (2) 言語的民族的レベル
  - (3) 社会経済レベル
  - (4) 政治レベル
2. 反ユダヤ政策
  - (1) ザルツブルク会談以前
  - (2) ザルツブルク会談 (1940年7月)
  - (3) ザルツブルク会談以後
3. 歴史修正主義の台頭とそれを巡る議論
  - (1) デュリカ『スロバキアとスロバキアの人々の歴史』(1995年刊行)
  - (2) フェルディナンド・デュルチャンスキーの胸像建設問題 (2011年設置)
  - (3) 司教ヤーン・ヴォイタシュチャークの列福問題 (1996年手続開始)

おわりに

## はじめに

オーストリア・ハンガリー帝国 (1867年6月8日 (和協)<sup>Ausgleich</sup>～1918年11月11日) は、第一次世界大戦の終戦とともに崩壊した。それを機に、1918年にはオーストリア、ハンガリー、クロアチア (後のユーゴスラビア) などが独立した。同年、チェコスロバキア共和国も独立した。図1に示すように、チェコス

ロバキア共和国は、西からボヘミア、モラヴィア、スロバキア、カルパト・ルテニアの4つの地域からなっていた。

図2は、チェコスロバキア共和国西部のボヘミア・モラヴィア地方 (チェコ地方) 周辺部にはドイツ語話者 (フォルクストイチェ (Volksdeutsche), 東方ドイツ人) が居住していたことを示している。この地方をズデーテンラント (ズデーテン地方) と言う。その一方で、



図1 チェコスロバキア (1928年～1938年)

Original Title: Regions of Czechoslovakia between WWI and WWII. Sub-Carpathian Rus' became a part of Ukraine after WWII.

Source: "The Czech Republic is Now Officially "Czechia" For Short," Website of the *Political Geography Now*, <https://www.polgeonow.com/2016/11/czech-republic-czechia-name-change.html>, accessed on May 8, 2024.

チェコスロバキア共和国東部のスロバキア地方には、北はポーランド語話者、東はルテニア語（ウクライナ語）話者、南はハンガリー語（マジャール語）話者が住んでいた。そのため、スロバキア地方のユダヤ人の中には、スロバキア語を日常的なコミュニケーション言語としない者もいた。第一次世界大戦後にチェコスロバキア共和国が独立したとき、言語（民族）分布と一致するような国境線は画定されなかった。そのためチェコスロバキア共和国が建国されると、西部にあってはドイツ語話者との間での軋轢が早晩避けられないと見られていた。その一方で、東部にあってはハンガリーとの間の国境問題が内包されていた。

1933年にドイツでナチスが政権を掌握すると、「生命圏 (Lebensraum, 生活圏とも)」を東方に求めた。その一方で、ボヘミア・モラヴィア地方に居住するフォルクスドイチェと言われるマイノリティはドイツへの編入を希望し、ズデーテン・ドイツ党を結成してナチス・

ドイツに働きかけた。これを東方侵出の好機と見たヒトラーは、1938年9月、イギリス、フランス、イタリアを巻き込んでミュンヘン会談（1938年9月29日～30日）を開催し、ミュンヘン協定を締結してズデーテンラントを併合した。フォルクスドイチェの政党であるズデーテン・ドイツ党の党首コンラート・ヘンライン (Konrad Henlein) と気脈を通じたヒトラーは、ヘンラインの申し出を奇貨として領土要求を実現させようとしたのである。さらにドイツは、1938年11月、チェコスロバキアとの間で懸案になっていたハンガリーとの国境紛争に介入し、ハンガリーに有利な「第一次ウィーン裁定」を締結させた（1938年11月2日）。これによってチェコスロバキアは、スロバキア地方の領土の広大な部分をハンガリーに割譲した。この「裁定」がハンガリー寄りになったのは、ハンガリーを足がかりにソ連への侵攻が、ドイツでは計画されていたからである。この「裁定」によりカル

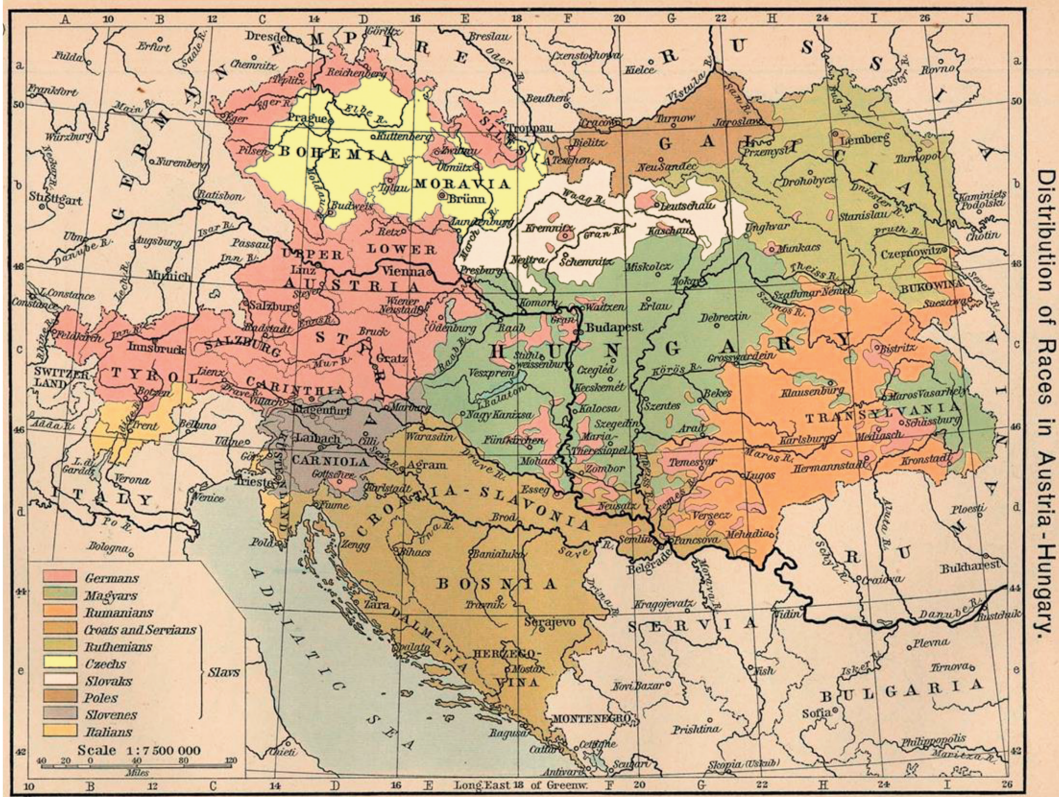


図2 オーストリア・ハンガリー帝国における人種（言語）分布（1911年）

Source: Austria and Hungary 1911 (425K), "Distribution of Races in Austria-Hungary," From the Historical Atlas by William R. Shepherd, 1911, [https://maps.lib.utexas.edu/maps/historical/shepherd/austria\\_hungary\\_1911.jpg](https://maps.lib.utexas.edu/maps/historical/shepherd/austria_hungary_1911.jpg), in: Website of the Map Collection of Perry-Castañeda Library: Historical Maps of Europe, [https://maps.lib.utexas.edu/maps/historical/history\\_europe.html#A](https://maps.lib.utexas.edu/maps/historical/history_europe.html#A), accessed on Mar. 30, 2024. ただし、チェコ（ボヘミアとモラヴィア）とスロバキアの色調は、見易さのため、それぞれ薄黄色と薄緑色に変えた。

パト・ルテニアもハンガリーに割譲されることになった（図3）。（1939年3月23日に勃発したスロバキア・ハンガリー戦争<sup>(1)</sup>でスロバキアが敗北したことにより（同年同月31日）、「第一次ウィーン裁定」のとおり国境

線が確定した。）

「第一次ウィーン裁定」締結の前月、1938年10月にジリナで自治を宣言していたスロバキアでは、ナショナリズム運動が高揚し、領土喪失という「失政」の責任はユダヤ人にあるとして、独立運動が激しさを増した<sup>(2)</sup>。

(1) この日に勃発したスロバキアとハンガリーとの戦闘は「小戦争（Little War）」と言われる。領土的野心からハンガリーの摂政（事実上の元首）ミクローシュ・ホルティ（Miklós Horthy）がハンガリー軍をカルパト・ウクライナに進軍させてスロバキア東部に侵攻した。Cf. Kafkadesk Prague Office, "On this Day, in 1939: the 'Little

War' broke out between Slovakia and Hungary," Website of the Kafkadesk, 23 Mar 2021, <https://kafkadesk.org/2021/03/23/on-this-day-in-1939-the-little-war-broke-out-between-slovakia-and-hungary/>, accessed on May 18, 2024.

(2) フリンカ・スロバキア人民党機関紙『スロバキ



図3 チェコスロバキアの分割 (1938年～1939年)

Original Title: Partition of Czechoslovakia, 1938-1939, by US Holocaust Memorial Museum

Source: "The Holocaust in Slovakia," Website of the *United States Holocaust Memorial Museum*, <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/article/the-holocaust-in-slovakia>, accessed on May 5, 2024. 以下も参照。吉田輝夫「ファシストの進撃」宍戸 寛・山上正太郎編著『20世紀の世界——激動の世紀』(世界の歴史12, 現代教養文庫832) 社会思想社, 1975年), <http://kytmyskz.my.coocan.jp/E/W/twenty/twen0.htm#0>, accessed on Jan. 21, 2024.

ズデーテンラントを併合したドイツは、さらに「チェコスロバキアの残りの部分」(ボヘミア・モラヴィア地方の蔑称)を支配下におくことができると判断して、1939年3月16日に保護領とした(ボヘミア・モラヴィア保護領)。その2日前の3月14日に、ドイツの後押し

を得てスロバキアはかねて希望していたおりに独立を遂げた(1939年3月14日～同年7月21日:スロバキア国(Slovenský štát); 1939年7月21日～1945年5月8日:スロバキア共和国(Slovenská republika))。こうして、ヨーロッパの内陸国スロバキア共和国は、チェコスロバキアを解体させることによって

アの人々 (Slovak)』(1939年9月23日付)には次のような記事が掲載された。「距離を取ってユダヤ人を苦々しく見る理由は、今も昔も変わってはいない。我が国の機能不全と不幸がユダヤ人のせいであるとの非難は間違っていない。ユダヤ人が不当に取り扱われているとか、ユダヤ人を人道的に処遇すべきだなどということを目にすると、とても奇妙に感ずるのはそのためである。……東洋人と同じようにユダヤ人にとって『人間の尊厳』は迂遠な未知の概念である。国家を維持しようとす

れば、ユダヤ人に対する闘いと、ユダヤ人問題の抜本的解決は避けて通ることができない。必要でさえあると考えなければならない。ユダヤ人へのお情けは道理から外れた間違いなのであって、捨てなければならない」Cited from: Ivan Kamenec, "The Deportation of Jewish Citizens from Slovakia," in: Dizider Tóth et al. (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia*, Auschwitz-Birkenau State Museum (Oświęcim, Poland), 2002, p. 111.

表1 略年表（1）

---

1918年	チェコスロバキア共和国 (Československá republika)
	(1938年3月12日 独逸合邦 (Anschluß))
	(1938年9月29日～30日 ミュンヘン会談によりズデーテンラントを割譲)
	(1938年10月6日 ジリナでスロバキア自治宣言, 自治政府樹立。以後チェコスロバキア第二共和国)
	(1938年11月2日 第一次ウィーン裁定でスロバキア南部とカルパト・ルテニアを割譲)
1939年	スロバキア独立 (3月14日)
	1939年3月14日～1939年7月21日 スロバキア国 (Slovenský štát)
	1939年7月21日～1945年5月8日 スロバキア共和国 (Slovenská republika)
	(1939年3月23日 ドイツと保護条約締結)
	(1939年9月1日 ドイツ軍, ポーランド侵攻。第二次世界大戦勃発)
1939年	「チェコスロバキアの残りの部分」の保護領化 (3月16日)
	ボヘミア・モラヴィア保護領 (Protektorat Böhmen und Mähren)
1939年～1945年	チェコスロバキア亡命政府
	(首都: 1939年～1940年, プラハ; 1940年～1945年, ロンドン)
1945年	チェコスロバキア共和国 (Československá republika)
1968年	プラハの春
1969年	チェコスロバキア社会主義共和国 (Československá socialistická republika)
1990年	チェコ・スロバキア連邦共和国
	チェコ共和国とスロバキア共和国の連邦制
	チェコ語: Česká a Slovenská Federativní Republika
	スロバキア語: Česká a Slovenská Federatívna Republika
	チェコ共和国 (Česká republika: ČR)
	スロバキア共和国 (Slovenská republika: SR)
1992年	連邦議会で「連邦解消法」を可決
1993年	連邦制解消 (1月1日) チェコ共和国とスロバキア共和国が各々独立
2004年	欧州連合 (EU) 加盟 (1月1日)
2009年	ユーロへの切り替え (1月1日)

---

独立を達成し、第二次世界大戦が終わるまでドイツの「衛星国」としてあり続けた(表1)。以下に引用するニジニャンスキー他の見解は、スロバキアがドイツと歩調を合わせた理由を解き明かしている。

スロバキアの政治家は、チェコスロバキアの解体(1939年3月)に与<sup>くみ</sup>したことを、純粋に「スロバキア」国民の観点から正当化しようとした。彼らにとっては、チェコスロバキアという国家を維持するよりも、スロバキア人を救済する方が重

表2 略年表(2)

---

1889年	フリンカ, ローマ・カトリック司祭に叙任
1905年	フリンカ, スロバキア人民党の結党準備に参加
1906年~1925年	スロバキア人民党
1907年	フリンカ, スロバキア人を扇動しハンガリー人に敵対した罪により投獄 (~1910年)
1925年~1938年	フリンカ・スロバキア人民党に党名変更
1938年	フリンカ死亡(8月), スロバキア自治宣言(10月)
1938年~1945年	合同政党フリンカ・スロバキア人民党=スロバキア民族統一党, 結党

---

要であった。そうしなければ、一国の民  
[国民]としてのスロバキア人は消滅し  
てしまうと考えたからである<sup>(3)</sup>。

スロバキア国はナチス・ドイツの衛星国  
となり、ナチスの外交と軍事に従属した。  
国家の首脳部は、自国の存続を可能にす  
るのはナチス・ドイツの勝利しかないこ  
とを悟っていたのである<sup>(4)</sup>。

ここで、叙述を第一次世界大戦直後に戻す。  
1918年に第一次世界大戦が終結し、オースト  
リア・ハンガリー帝国が崩壊して建国された  
チェコスロバキア共和国は、多様な言語話者  
(民族)が混交した国であった。このことは  
すでに述べた。この共和国は、主としてかつ  
てのオーストリアの支配下にあったチェコ地  
方(ボヘミア・モラビア地方)(工業地域)と  
ハンガリーの支配下にあったスロバキア地方

(農業地域)からなっていた。二つの地方の  
経済力の差、教育程度の違いなどからチェコ  
地方の出身者がチェコスロバキア共和国では  
優位に処遇されることも稀ではなかった。こ  
のことがひとつの原因になって、第一次世界  
大戦以前からスロバキア地方ではナショナリ  
ズム運動の高まりが見られた。これを担った  
のが、1906年に結党されたカトリック・ナ  
ショナリズムの政党、スロバキア人民党  
(Slovenská ľudová strana: SLS)である。この  
政党は、後にドイツの支援を得て独立したス  
ロバキアの家民政党にまで成長したフリ  
ンカ・スロバキア人民党(Hlinkova slovenská  
ľudová strana: HSLS, 1938年改称)の前身で  
ある。党名の中にある「フリンカ」はスロバ  
キア人民党の創立者の一人アンドレイ・フリ  
ンカ(1864年~1938年)(Andrej Hlinka)にち  
なむ。(フリンカ関係略年表については表2  
参照。)

フリンカ・スロバキア人民党は、1930年代  
にはイタリアとオーストリアのファシズムの  
影響を受けた。また1933年にナチスが政権  
を掌握すると、国家社会主義の理念を受入れ、  
それをカトリックの教義で根拠づける傾向が  
強まった(そのために、これを「聖職者ファ

---

(3) エドゥアルド・ニジニャンスキー=カタリー  
ナ・プシツォヴァ「スロバキア国のプロパガン  
ダにおける敵のイメージの諸類型」(木村和範  
訳),『経済論集』(北海学園大学),第71巻第  
3号,2023年12月,70頁。書誌情報につい  
ては脚注(6)⑧参照。

(4) 同上60頁。

シズム (clero-fascism)」と言う)。1938年にフリンカが死亡すると、同じくカトリック司教のヨゼフ・ティソがフリンカ・スロバキア人民党の党首の座に着いた。この時期は、フリンカ・スロバキア人民党が政権を掌握する時期と重なる。一党独裁体制を作り上げる上で邪魔になる政党を解散させ、その他の政党とは合同を進めて、フリンカ・スロバキア人民党＝スロバキア民族統一党が結成された。しかし、この政党もまた単にフリンカ・スロバキア人民党と言われることが少なくない。こうして、フリンカ・スロバキア人民党は、ファシズム理念の提言者に留まらず、具体的な政策の立案・実行者となった。第二次世界大戦前と戦中を通じてカトリック司祭を党首（大統領）とするフリンカ・スロバキア人民党を政権党とする一党独裁の国スロバキアでは反ユダヤ主義に基づく様々な反ユダヤ政策が施行された。1942年には約5万8000人のユダヤ人が強制移送されて、ホロコーストはそのピークに達した。その大半はポーランド総督府ルブリン県の収容所（主としてマイダネク収容所）に移送されたが、アウシュヴィッツに移送された者もいる。

アウシュヴィッツにおける犠牲者が100万人～110万人であることを明らかにしたアウシュヴィッツ記念博物館(Memorial and Museum Auschwitz-Birkenau: Former German Nazi Concentration and Extermination Camp) 元歴史部長フランシセック・ピーベルが作成した総括表(表3)は、スロバキアからのユダヤ人の移送が他国に比べて早い時期に、しかも短期間に行われたことを示している。

この1942年の強制移送には、それ以外に

も特異な特徴がある。それは、①ドイツを除けば独立国としては進んで自国の人的物的資源を投入したこと、②強制移送の合法性を憲法に謳いその遡及的合憲性を明記したこと、③ユダヤ人（移送済みと移送予定の両方）一人につき500ライヒスマルクをドイツ側に支払ったこと、である。

この聖職者ファシズム国家は、ナチス・ドイツとともに1945年に消滅し、亡命政府がロンドンから帰国してチェコスロバキア共和国が再興された。その後、同国は、社会主義国家、チェコとスロバキアとの連邦国家などを経て、1993年には、チェコとスロバキアは連邦制を廃して、それぞれが独立した(表1)。

スロバキアではそのころから歴史を見直す見解（歴史修正主義）が台頭してきた。あたかも新生スロバキアのありようを戦前に回帰させようとするかの動きが見られるようになったのである。

本稿の目的は、エドゥアルド・ニジニャンスキーとカタリーナ・ボホヴァの未公開論文<sup>(5)</sup>に軸にして、1993年以降のスロバキアにおける歴史修正主義者の言説とそれに対する批判を紹介する。ただし、歴史認識を巡る論争そのものに立ち入る前に、戦前戦中のスロバキアの特殊性を鮮明にしておきたい。そのために、ホロコーストを特にそのピーク

(5) エドゥアルド・ニジニャンスキー＝カタリーナ・ボホヴァ「1993年スロバキア共和国成立後における歴史学および一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第2号, 2023年9月。書誌情報については脚注(6)⑦参照。



表3 アウシュヴィッツへの移送者数 (1940年～1945年)

移送年月		移送人数														
年	月	合計	出発地											強制収容所、 補助収容所、 その他(a)		
			ハンガリー	ポーランド	フランス	オランダ	ギリシア	ボヘミア・モ ラヴィア保護領 テレジーン シュタット	スロバキア	ベルギー	ドイツと オーストリア	ユーゴスラビア	イタリア		ノルウェー	
1940-		1,500	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,500 (b)
	2	-(c)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	3,112	-	-	1,112	-	-	-	2,000	-	-	-	-	-	-	-
	4	8,004	-	-	-	-	-	-	8,004	-	-	-	-	-	-	-
	5	7,716	-	6,130	-	-	-	-	-	-	586	-	-	-	-	1,000
	6	21,496	-	16,000	4,037	-	-	-	1,059	-	-	-	-	-	-	400
	7	19,465	-	-	7,930	5,978	-	-	4,810	-	510	-	-	-	-	237
	8	41,960	-	13,000	13,123	6,265	-	-	-	5,990	-	3,500	-	-	-	82
	9	26,591	-	-	12,134	6,675	-	-	1,992	5,790	-	-	-	-	-	-
	10	22,841	-	-	-	11,965	-	1,866	860	4,841	759	1,500	-	-	-	1,050
	11	28,000	-	18,000	3,745	5,199	-	-	-	-	1,001	-	-	-	-	55
	12	18,025	-	14,000	-	2,496	-	-	-	-	997	-	-	-	532	-
	1	57,605	-	44,246	-	3,594	-	6,000	-	1,555	2,210	-	-	-	-	-
	2	21,039	-	8,682	2,998	4,283	-	1,001	-	-	4,075	-	-	-	-	-
	3	26,360	-	7,000	1,000	-	10,002	-	-	-	8,200	-	-	-	158	-
	4	28,034	-	-	-	-	24,921	-	-	1,400	1,688	-	-	-	-	25
	5	16,325	-	1,000	-	-	10,930	-	-	-	395	4,000	-	-	-	-
	6	9,479	-	6,145	1,018	-	880	-	-	-	360	-	-	-	-	1,076
	7	7,194	-	-	2,000	-	-	-	-	1,553	-	-	-	-	-	3,641
	8	50,105	-	45,926	-	2,005	1,800	-	-	-	374	-	-	-	-	-
	9	23,330	-	12,800	1,000	2,971	-	5,007	-	1,425	127	-	-	-	-	-
	10	8,688	-	1,386	2,000	1,007	-	1,313	-	-	148	-	1,031	-	-	1,803
	11	13,620	-	8,051	1,200	2,144	-	-	-	-	69	-	415	-	-	1,291
	12	8,577	-	800	1,850	-	-	5,007	-	-	79	-	215	-	-	626
	1	6,434	-	2,000	1,155	949	-	-	-	657	83	-	584	-	-	1,006
	2	4,774	-	104	2,714	1,015	-	-	-	-	50	-	485	-	-	406
	3	4,557	-	679	2,501	1,331	-	-	-	-	32	-	-	-	-	14
	4	8,666	1,800	564	2,504	240	1,500	-	-	625	61	-	606	-	-	766
	5	228,674	215,436	27	2,200	453	-	7,503	-	507	560	-	575	-	-	1,413
	6	169,343	164,425	761	1,100	496	2,000	-	-	-	46	-	517	-	-	-
	7	72,419	55,741	9,811	1,300	-	-	-	-	563	485	-	1,805	-	-	2,714
	8	17,218	131	4,509	493	-	2,500	-	-	-	56	-	250	-	-	9,279
	9	10,416	-	3,393	-	1,019	-	3,999	-	-	68	-	-	-	-	1,937
	8/9	65,000	-	65,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10	18,101	152	-	-	-	-	14,403	-	-	31	-	102	-	-	3,413
	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8/9	7,936	-	-	-	-	-	-	7,936	-	-	-	-	-	-	-
	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1945	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-
1941- 1944	不詳	1,837	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,000	837	-	-	-
	合計	1,084,457	437,685	290,464	69,114	60,085	54,533	46,099	26,661	24,906	23,064	10,000	7,422	690	33,734	
	概数	1,100,000 (1,095,190)	438,000	300,000	69,000	60,000	55,000	46,000	27,000	25,000	23,000	10,000	7,500	690	34,000	

(原注)

- Danuta Czech, *Kalendarium der Ergebnisse im Konzentrationslager Auschwitz-Birkenau 1939-1945*, Reinbek bei Hamburg 1989.
- 大量移送の以前に非ユダヤ人と混載されて移送されたユダヤ人の概数。1941年5月から12月までの間、ユダヤ人1079人はこのようにして移送された。
- データの欠損。

(訳注) 強調は引用者。

(出所) Franciszek Piper, *Auschwitz: How Many Perished Jews, Poles, Gypsies...*, Oświęcim 1996 所載の巻末折込統計表。

としての1942年強制移送に着目して、反ユダヤ・プロパガンダの根底にあるユダヤ人観、およびそれに基づいて進められた国策としての反ユダヤ政策について述べる。なお、以下の叙述では若干補強しつつ、主としてスロバキアの歴史学者によるホロコースト研究を参照している<sup>(6)</sup>。

(6) 以下を参照。①Ján Hlavinka, Hana Kubátová and Fedor Blaščák (ed.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide (Proceedings from the Conference Žilina, Slovakia, 25–26 August 2015)*, 2015. このシンポジウム集録の全論文（8篇）の翻訳（木村和範訳）は、『経済論集』（北海学園大学）の各号に分割掲載された。以下執筆者とタイトルのみを記す。(1)イヴァン・カメネツ「ルドルフ・ヴルバとアルフレッド・ヴェツラーのアウシュヴィッツからの脱走とその報告文書の運命」,(2)エドゥアルド・ニジニャンスキー「1944年にアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所からスロバキアへ脱走したアルノシュト・ロジンとチェスワフ・モルドヴィッツの歴史」,(3)ヤーン・フラヴィンカ「ディオニューズ・レーナルドとレオ（ラディスラフ）・ユンゲルブルグリン県からの脱走者とユダヤ人大量虐殺についての世界への通報—」,以上第70巻第2号（2022年9月）,(4)マルティナ・フィアモヴァ「大統領、スロバキア共和国政府、1942年におけるスロバキアからのユダヤ人強制移送」,(5)カタリーナ・メシコヴァ・フラツカ「強制移送からユダヤ人を救おうとした『作業部会』」,(6)ミハル・シュヴァルトツ「悪魔の手先フリッツ・フィアラ—書誌的研究試論—」,(7)ハナ・クバートヴァ「スロバキア人とユダヤ人の協力と抵抗」,以上第70巻第4号（2023年3月）,(8)ヴァンダ・ラジカン「スロバキア内務省第14局長アントン・ヴァシェックと強制移送にたいするその責任」,以上第71巻第1号（2023年6月）；②Dizider Tóth et al. (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia*, Auschwitz-Birkenau State Museum, (Oświęcim, Poland), 2002；③Katarína Hradská, „Der deutsche Berater und die ‚Lösung der Judenfrage‘ in der Slowakei“, *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 2002.（カタリーナ・フラツカ「ドイツ顧問官とスロバキアにおける『ユダヤ人問題の解決』

## 1. 反ユダヤ主義の4類型

反ユダヤ主義とは、科学的な根拠が脆弱で、歴史の検証を経ない排他的なユダヤ人観から、ユダヤ人に対して不寛容な態度をとり、ユダヤ人の法的権利を剥奪し、ユダヤ人を排除することを善しとする考え方である。この反ユダヤ主義は、ユダヤ人をどう見るかという「ユダヤ人観」（心の中、ものの見方）に止

（木村和範訳）、『経済論集』（北海学園大学）第71巻第1号、2023年6月）；④ ditto, „Vorgeschichte der slowakischen Transporte nach Theresienstadt“, *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 1996（カタリーナ・フラツカ「テレジエンシュタットへのスロバキアからの強制移送 前史」（木村和範訳）同上。）；⑤エドゥアルド・ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）第189・190号合併号、2023年3月（訳者の依頼により執筆された未公刊論文“The Holocaust in Slovakia (1938-1945)”の翻訳）；⑥Eduard Nižňanský, “The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 — the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary,” *Historický časopis*, [The Historical Journal,] 2011, 59, Supplement.（エドゥアルド・ニジニャンスキー「1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツに外交交渉—スロバキア、ルーマニア、ハンガリーを例にして—」（木村和範訳）同上）；⑦Eduard Nižňanský and Katarína Bohová, “Perceptions of the Holocaust in Slovak Historiography and among the General Public after the Establishment of the Slovak Republic in 1993,” *United in Diversity* (tentative title), unpublished.（エドゥアルド・ニジニャンスキー＝カタリーナ・ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識」（木村和範訳）、『経済論集』第71巻第2号、2023年9月）訳文の底本（未公刊）はJ. Brach (ed.), *United in Diversity*（仮題）に収録予定であり、予定出版社はベルリンのWalter de Gruyter GmbHである。；⑧Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, „Die Typologie des Feindbildes in der Propaganda des slowakischen

まらず、究極的にはユダヤ民族を物理的に絶滅させるところまで行き着くこともあることは、歴史が伝えるとおりでである。

反ユダヤ主義はヨーロッパ各国に見られる。19世紀末にはドレフュス事件があった。これは、1894年、フランス陸軍参謀本部大尉であったユダヤ人アルフレド・ドレフュスのスパイ冤罪事件である。

1939年9月1日にドイツ軍の電撃作戦により短期間に占領されたポーランドでは、それまで支配していた連隊長グループが反ユダヤ主義者であったと言われていた<sup>(7)</sup>。

Staates“, unveröffentlich. (エドゥアルド・ニジニャンスキー=カタリーナ・プシツォヴァ「スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第3号, 2023年12月)ただし, これは, 以下の論文に大幅な手を加えた未公開改訂稿の翻訳である。Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, „Die Darstellung des Antisemitismus in der Slowakei durch Karikaturen und Plakate“, in: ditto, *Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania [スロバキア国民蜂起記念博物館], 2021, SS. 59-66; ⑨ditto, „Die Politik des Antisemitismus und der Holocaust in der Slowakei (1938-1945)“, *op. cit.*, (エドゥアルド・ニジニャンスキー=カタリーナ・プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト(1938年~1945年)」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第4号, 2024年3月。)

なお, 以下の文献も適宜参照した。①矢田俊隆『ハンガリー チェコスロヴァキア 現代史』山川出版社, 1978年; ②南塚信吾『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社, 1999年。

(7) Juhuda Bauer, “The Tragedy of the Slovak Jews within the Framework of Nazi Policy towards the Jews in Europe in General,” in: Dizider Tóth *et al.* (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia*, Auschwitz-Birkenau State Museum, Oświęcim, 2002, p. 64.

第二次世界大戦が終わった直後のスロバキアでは、ナチス収容所からユダヤ人が生還し、旧所有財産を巡る返還要求が各地で起こった。トポルチャニー(ノヴァークーの南西約38<sup>km</sup>)にもユダヤ人約550人が生還し、現地住民との間で軋轢が生じた。戦前カトリックが経営していた学校が、戦後に国有化されようとしたことに、事は始まる。国有化されれば元の教師(修道女)が解雇されるのではないか、その跡にユダヤ人が教員として採用されるのではないかという噂が広まった。学校国営化に反対するデモがあった日に、医師がユダヤ人の子どもたちに予防接種をしていた。それを見たスロバキア人は、ユダヤ人が非ユダヤ人の子どもたちの殺害を計画しているという流言蜚語を信じた。そして暴行に及び、ユダヤ人約50人が負傷し、そのうち15人は重傷を負った。1945年9月24日に起こったこの事件をトポルチャニーのポグロム(Topolčany pogrom)と言う<sup>(8)</sup>。反ユダヤ主義は単に心の中に宿っていただけではなく、暴力を伴って現象した。そのようなことは戦前戦中戦後を通じてスロバキアでは珍しいことではなかった。

## (1) 宗教レベル

後にスロバキア政府で副首相兼内務大臣を

(8) 戦前トポルチャニーには約3000人のユダヤ人がいたが、事件後ほどなくしてユダヤ人は、生還した約550人のほとんどがその地を離れた。Cf. “Topolcany,” Website of the *Encyclopedia.com*, > Religion > Encyclopedias almanacs transcripts and maps > Topolcany, <https://www.encyclopedia.com/religion/encyclopedias-almanacs-transcripts-and-maps/topolcany>, accessed on Mar. 18, 2024.

務めたアレクサンデル・マッハは国会で次のように発言した。

……ユダヤ人は、我が国民にとって不倶戴天の敵であり不幸以外の何物でもない。このことを疑う者はいない。……<sup>(9)</sup>

以下では、ユダヤ人を「<sup>とも</sup>俱に<sup>いただ</sup>天を戴かず」の敵と見るスロバキアの反ユダヤ主義について述べる。

ニジニャンスキー他によれば、戦前戦中のスロバキアにおける反ユダヤ主義には4つのレベルがある<sup>(10)</sup>。第1は、宗教レベルの反ユ

ダヤ主義である。ユダヤ教はイエス・キリストを救世主とは認めない、それどころか、ユダヤ人はイエス・キリストを磔刑に処すよう求めたとして、ユダヤ人を神殺しの罪で非難し排撃する。これが第1の反ユダヤ主義である。このような考えかたから、ユダヤ人に対して不寛容な態度がとられてきた。

例えば、1940年9月にルジヨムベロク（パンスカ・ビストリツァの北約52<sup>km</sup>）において、スロバキア大統領であったヨゼフ・ティソは、当面の戦争がヒトラーの言う「総力戦」であり、英米のブルトクラシー（金権政治）への戦いであるとともに、ユダヤ資本への戦いであることを述べた。そのときに次のように付け足して、ユダヤ人は「神殺し」の「原罪」から逃れられない存在であるとして敵愾心を煽り、ヒトラーと「俱に天を戴く」ように仕向けた。

……ユダヤ人がピラトにキリストの死を要求したとき、彼ら自身が発した呪いは成就しました。ピラトはユダヤ人に、「あなたたちの王を磔にしようか。」と言いました。すると恐れ多くも、「私たちに王はいません。私たちや私たちの子どもが戴くのは、カエサルただ一人です。」と答えました。……<sup>(11)</sup>

(9) Eduard Nižňanský, *Holokaust na Slovensku 1. Obdobie autonómie (6. 10. 1938–14. 3. 1939). Dokumenty* [スロバキアのホロコースト 第1巻 自治政府時代 (1938年10月6日～1939年3月14日)および関連文書], Bratislava 2001, S. 116–117. ただし、引用は、Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, „Die Politik des Antisemitismus und der Holocaust in der Slowakei (1938–1945)“, in: *ditto, Antisemitismus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938–1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania [スロバキア国民蜂起記念博物館], 2021 (ニジニャンスキー＝プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト(1938年～1945年)」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第4号, 2024年3月, 42頁)による。

(10) Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, „Die Politik des Antisemitismus und der Holocaust in der Slowakei (1938–1945)“, in: *ditto, Antisemitismus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938–1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania [スロバキア国民蜂起記念博物館], 2021, SS. 27–58. (ニジニャンスキー＝プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト(1938

年～1945年)」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第4号, 2024年3月, 39頁以下。)

(11) ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト(1938年～1945年)」(木村和範訳), 『学園論集』(北海学園大学)第189・190号合併号, 2023年3月, 107頁。書誌情報については脚注(6)⑤参照。

キリスト教の揺籃期<sup>ようらんき</sup>においては、イエスに帰依し我が身の危険を顧みず布教に専念した人たちは他ならぬユダヤ人であることを明言し、異教徒を排斥する不寛容な態度は、キリスト教の教義とは相容れないとして、バチカンが宗教レベルの反ユダヤ主義を否定するようになるのは、教皇パウロ6世による『我らの時代<sup>ノストラ・エターテ</sup> (Nostra Aetate)』(1965年)<sup>(12)</sup>の布告を待たねばならなかった。ここではその一部分のみを引用する。

確かに、ユダヤ教の権威者とそれに従った人たちは、キリストの死を強く求めました。しかし、イエスの受難の中で起こったことについて、当時生きていたすべてのユダヤ人と区別せずに今日のユダヤ人を非難してはいけません。教会は神の新しい民ですが、あたかも『聖書』に従ったかのようなふりをして、ユダヤ人のことを、神に拒絶されている人たちだとか呪われている人たちだというように描いてはなりません。教理問答のときも神の御言葉を説教するときも、福音の真理とキリストの霊に反するようなことは何一つ教えてはなりません。すべての人は、このことを理解しなければなりません<sup>(13)</sup>。

(12) 『我らの時代 (Nostra Aetate)』の全文は以下で公開されている。Declaration on the Relation of the Church to Non-Christian Religions: *Nostra Aetate*, proclaimed by his Holiness Pope Paul VI on October 28, 1965, Website of the Vatican, [https://www.vatican.va/archive/hist\\_councils/ii\\_vatican\\_council/documents/vat-ii\\_decl\\_19651028\\_nostra-aetate\\_en.html](https://www.vatican.va/archive/hist_councils/ii_vatican_council/documents/vat-ii_decl_19651028_nostra-aetate_en.html), accessed on Mar. 18, 2024.

(13) *Ibid.*

## (2) 言語的民族的レベル

第2は、言語的民族的レベルの反ユダヤ主義である。これは、スロバキア・ユダヤ人が、イデッシュ語、ドイツ語、ハンガリー語などを母語とするので、スロバキア人ではないという考え方である。6世紀以降のハプスブルク帝国時代には、スロバキア地方の南部もハンガリーの支配下にあった。そのためにハンガリー語を話す住民がスロバキアには多数いて、その中にもユダヤ人がいたことは当然であった(前掲図2参照)。

第2レベルの反ユダヤ主義は、ある個人の母語や地縁などによる特定コミュニティへの帰属の共通性と異質性を基準にする。そのためこの基準は、同一コミュニティに所属する者どうしの婚姻を通じて、「血筋」を基準とする区別・差別と結びつきやすく、マジョリティとは異質の存在として社会から排除する考え方に通ずる。四人の祖父母のうち三人がユダヤ人であれば、その者はユダヤ人(一人の場合は混血ユダヤ人)と見なされるとしたスロバキアの1941年ユダヤ法(後述2(3)ザルツブルク会議以後参照)は、血縁に基づく差別と排除そして迫害の法的根拠となった。

『ニューヨーク・タイムズ』紙(1938年11月6日付)は、スロバキアではこの種の反ユダヤ主義によってスロバキア・ユダヤ人が非難されていると報じている。

彼ら[ユダヤ人]がチェコ人による中央集権主義を支持し、また親ハンガリーの立場に立ちハンガリー語を話すと言っては、スロバキア人は[ユダヤ人を]非難している。その一方で、ハンガリー人は

ハンガリーを裏切ったとして彼ら〔ユダヤ人〕を非難している<sup>(14)</sup>。

### (3) 社会経済レベル

第3の反ユダヤ主義は社会経済的タイプである。これはシェイクスピアの『ベニスの商人』（1590年代半ば）に見られるような反ユダヤ主義である。ユダヤ人は強欲に蓄財し富を占有している、ユダヤ人の財産は本来スロバキア人のものであって、スロバキア人はこれを取り返さなくてはならないし、それを取り返しても罪にはならない、それは、キリスト教の教義に則った正しい行いである。—このような考え方が社会経済タイプの反ユダヤ主義である。ユダヤ人はスロバキア人に酒を飲ませて堕落させたという主張もこのタイプの反ユダヤ主義である。

1940年8月9日のプリンカ・スロバキア人民党事務局会議において党首兼大統領ヨゼフ・ティソは次のように発言した。これは、第3のタイプの反ユダヤ主義を物語っている。

……ユダヤ人問題について述べたいと思います。ユダヤ人は私に数多くの手紙を寄せて、私たちがやっていることはキリスト教の教義に適うものかどうかと尋ねてきたからです。このことから、ユダヤ人は私にキリスト教を教えたいと思っているのではないかと考えるに至りました。しかし、それは議論するに足りません。議論すべきは、私がユダヤ人のせい

で国民を破滅させないようにするにはどうしたらよいかということなのです。ユダヤ人がどれだけいようと、私にとって国民はユダヤ人以上の存在です。ユダヤ人のせいで国民が生存の危機に瀕するかもしれないと思うとき、私はキリスト者としてまず自分に対して、次に皆さんに対してこう言いたい。まったく不正はありませんでした。買っただけです。個人が行うことについては、その人みずからが責任を負っています。その一方で、国家が行うこと、党が行うことについては、すべてが正義の原則に従っていますので、私たちはその原則に則って、私たちの良心の責任においてそうしているだけなのです。かつて盗まれたスロバキア人の財産が、今日はスロバキア人の手に戻る、それは当然のことなのです……<sup>(15)</sup>。

「アーリア化」（ユダヤ人財産のスロバキア人（アーリア人、キリスト教徒）への移転）、すなわち国家保証によるユダヤ人財産の強奪が「正義の原則」に叶っているとする大統領ティソの発言を耳にしたスロバキア市民は、アーリア化の担い手になることに罪悪感を感じることにはなかったであろう。ティソは、世俗の世界で頂点に立つ最高指導者（「総統」）であり、かつ神に仕える高位の聖職者（司祭）として精神世界でのあり方を導くという二重

(15) 引用は、ニジニャンスキー＝ブシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『経済論集』（北海学園大学）、第71巻第4号、2024年3月、51頁～52頁（脚注114）による。

(14) *The New York Times*, Nov. 6, 1938.

の意味で、カリスマ的存在であったからである。ティソなどの政権首脳は、ユダヤ人財産をスロバキア人に移転できた暁には、スロバキアはそれまで以上に豊かになると豪語した<sup>(16)</sup>。実際にアーリア化を担いユダヤ人の後釜に座ることができた「アーリア人」は、大統領の約束どおりに「新しい中産階級」となって体制を支えた。ただし、アーリア化の担い手の選定では、政権の首脳やフリンカ・スロバキア人民党（あるいはその準軍事組織としてのフリンカ警固団）の有力者などとのコネが優先された。そのために、どのスロバキア市民にも一様に、アーリア化の担い手になりうるチャンスが訪れるということではなかった。それでもマジョリティ（カトリック教徒）は、「かつて盗まれたスロバキア人の財産が、今日はスロバキア人の手に戻る」だけだ、ユダヤ人の財産は、もともとスロバキア人のものであって、それを取り返して何が悪い、という大統領兼司祭の主張を「お墨付き」として、アーリア化を悪と見なすことがなかった（できなかった）。むしろ、学校で蓄財の才を身につけて裕福になったユダヤ人に屈服することこそが悪とされた（図4）。

アーリア化を正当化したティソは、フリンカ・スロバキア人民党の機関紙『スロバキアの人々』紙1940年9月25日号で、巧妙に仕組んで蓄財を可能にするユダヤ人コネクションを断ち切るためには、ユダヤ人に学習権を付与しないことが必要であると主張した。

ユダヤ人を学校に入れてはならない。ユ

(16) 同上56頁。

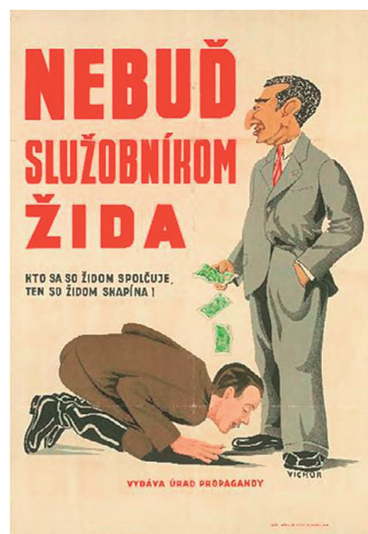


図4 「ユダヤ人の奴隷になるな。ユダヤ人の仲間になった者はユダヤ人と共に死ぬ。」  
(制作年不詳)

(訳注) スロバキア・プロパガンダ局（政治宣伝局）制作

(出所) エドゥアルド・ニジニャンスキー＝カタリーナ・プシツォヴァ「スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学)第71巻第3号, 2023年12月, 73頁。

ダヤ人には教育の機会を与えてはならない、と私は言いたい。……ありとあらゆる学問的な知識で武装したユダヤ人が、将来、スロバキア人に襲いかかることのないようにしなければならない<sup>(17)</sup>。

#### (4) 政治レベル

最後の第4のタイプの反ユダヤ主義は政治レベルである。第一次世界大戦では、ドイツ、

(17) *Slovak*, 25. 09. 1940, p.4. ただし、引用はニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト(1938年～1945年)」(木村和範訳), 『学園論集』(北海学園大学), 第189・190号合併号, 2023年3月, 111頁による。



図5 ユダヤ人は極悪人

(出所)『国民新聞 (Ludové noviny)』1941年8月24日。ただし、図4に同じ(68頁)。

ハンガリー・オーストリア帝国が敗北し、そして、ベルサイユ条約が締結された。それは英米露などの敵方と結託したユダヤ人が「第五列」として銃後で暗躍したからだ、今ユダヤ人はソ連と結託してユダヤ・ボルシェヴィキとなり、世界制覇を目論んでいる。—このような考え方に典型的に見られる反ユダヤ主義がこれである。ベルサイユ条約で「天文学的」と言われる多額の賠償金に喘いでいたドイツでは、ナチスが、特にこのようなプロパガンダを梃子として政権を奪取した。第二

次世界大戦の開戦から終戦までを通じて枢軸国の側にあったスロバキアでは、ナチス・プロパガンダの影響を受けて、政治レベルの反ユダヤ主義が広がるようになった。

図5は、スロバキア政府系新聞『国民新聞』(1941年8月24日付)の第一面に掲載されたカリカチュアである。そのタイトルは「ユダヤ人は極悪人」である。ユダヤ人が傀儡師となって背後にあり、スターリン、チャーチル、ルーズベルトを操っている。第二次世界大戦は、ボルシェヴィキと結託したユダヤ人、す



なわちユダヤ・ボルシェヴィキが列強を操って世界を巻き込んで引き起こした戦争、という訳である。

1939年3月16日にドイツは、「チェコスロバキアの残りの部分」、すなわちボヘミアとモラビアを占領して保護領とした（ボヘミア・モラビア保護領）。その2日前の3月14日にドイツはスロバキアを独立させた。その結果、旧チェコスロバキアからの亡命者は、エドヴァルド・ベネシュ（Edvard Beneš）を大統領とする亡命政府をロンドンに樹立した（1940年7月9日）（表1参照）。このため、スロバキア政府のプロパガンダでは、ロンドンのベネシュ、その後に控えるチャーチル、そしてチャーチルを影で操るユダヤ人、これらが攻撃の対象となった。図6（「ロンドンから進軍ラッパを吹くチャーチル」）はその一例である。イギリス軍のヘルメットを肩から掲げているベネシュの背後に<sup>ブルトクラシー</sup>金権政治の国を象徴するイギリスの首相チャーチルがいる。そのポケットにはユダヤ人が入っていて、ユダヤとイギリスの結託ぶりが描かれている。二人の足下に伏せている二股尻尾のライオンはチェコのシンボルである。スロバキア人成人男子とおばあさんに対して、チェコスロバキアの再興計画があることを示唆するベネシュは、「市民の皆さん、私は一計を案じています。」と訴えるが、嘲笑されている<sup>(18)</sup>。

以上に述べた第4のタイプの反ユダヤ主義は、ユダヤ・ボルシェヴィキと結託したとし



図6 ロンドンから進軍ラッパを吹くチャーチル（1941年）  
（出所）図4に同じ（72頁）。

<sup>ブルトクラシー</sup>て英米の金権政治を非難したドイツのプロパガンダと類似している。

スロバキアの反ユダヤ主義は、反ユダヤ政策（1942年の大量強制移送をピークとする様々な迫害）となって顕在化した。このことを取り上げる前に、1944年になると、プロパガンダの内容が変化したことについて触れておく。1944年8月29日、バンスカ・ビストリツァで親独政権へのレジスタンス武装蜂起（スロバキア国民蜂起（Slovenské národné povstanie: SNP; Slovakia National Uprising））が勃発した。ドイツ軍の介入により次第に劣勢になり最終的に鎮圧された蜂起軍は、同年10月27日～28日の深夜にパルチザン方式に戦術を変更し、ソ連兵の協力を得て1945年5月8日にスロバキア政府が降伏する直前まで戦闘を継続した。

スロバキア国民蜂起が勃発した1944年夏以降になると、プロパガンダは新たな様相を

(18) ニジニャンスキー＝ブシツォヴァ「スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型」（木村和範訳、『経済論集』（北海学園大学），第71巻第3号，2023年12月，72頁。

呈するようになった。この蜂起により、亡命政府のベネシュの帰国が現実性を帯びるようになったからである。事実、翌年にはスロバキア政府の命運が尽きて、亡命政府の首脳が帰国しチェコスロバキア共和国が再興された。このために政治レベルの反ユダヤ主義プロパガンダは「ベネシュの帰国後」にも向けられるようになった（図7）。

図7は、再興を果たしたとしてもチェコスロバキア共和国でベネシュを待っているのは、廃墟と化した街に佇むスロバキア人（失意の男性、立ちつくす母子、嘆き悲しむ女性）であることを描いている。ポスターの下部には、次のように書かれている（大意）。

独立後5年をかけてスロバキアの国民と一緒にあってあなたが築きあげたもの、あなたの幸せな未来のための土台が破壊されてしまう<sup>(19)</sup>。

## 2. 反ユダヤ政策<sup>(20)</sup>

1940年7月に開催されたドイツとスロバキア二ヶ国によるザルツブルク会談を境にして、フリンカ・スロバキア人民党の反ユダヤ政策が転換した。以下では、時期を三段階に分けて、スロバキアの反ユダヤ政策について述べる。

(19) 引用は、同上論文の補注2（72頁）による。

(20) この項の叙述については、ニジニャンスキー＝ブシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190号合併号、2023年3月を参照。

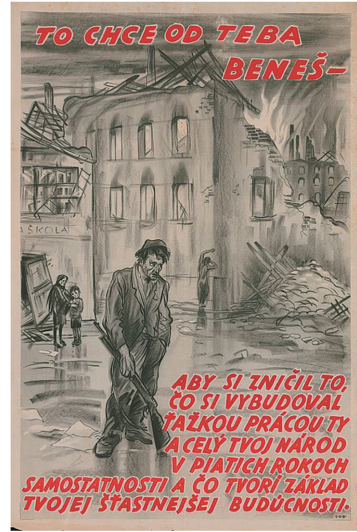


図7 ベネシュの願いはこれ  
(1944年8月～10月)  
(出所) 図4に同じ(73頁)。

### (1) ザルツブルク会談以前

建国直後から政権を担当したのは、大統領のヨゼフ・ティソを筆頭とするフリンカ・スロバキア人民党穏健派である。穏健派は、「人員制限原則（*numerus clausus*）」<sup>(21)</sup>に基づいて社会諸分野へのユダヤ人の関与の度合いを制限した。ユダヤ人がスロバキアで占める割合は全人口の約4%であった。穏健派はそれを基準にして、雇用されるユダヤ人の割合を4%に抑えたのである。以下に引用したティソの見解（1939年1月）は、<sup>ヌメルス・クラウス</sup>人数制限原則がユダヤ人に対する教育を受ける権利にも及んでいることを示唆している。

(21) 例えばドイツの大学で定員枠よりも志願者数が多い学部で入学者を選抜するときに採用する制度も“*numerus clausus*”（略称NC）と言われている。Cf. “*Numerus clausus: Die wichtigsten Tabellen zum NC-Studium,*” Website of the *Karrierebibel.de*, <https://karrierebibel.de/numerus-clausus/>, accessed on Mar. 22, 2024.

ユダヤ人問題は、スロバキア・ユダヤ人がスロバキアの全人口に比例して、その数に見合うだけの影響しか及ぼさない形で解決されることになるだろう。スロバキア人に教育が施されれば、経済や工業の帳簿類を読み書きできるようになり、それまではユダヤ人が占有していたすべての地位を次第に継承できるようになるであろう<sup>(22)</sup>。

ヌメルス・クラウス  
 人数制限原則がユダヤ人の排除原理として機能するとともに、1940年7月までには、ユダヤ人には次のような免許の許認可が降りなくなった。宿泊施設営業免許、電波傍受免許、狩猟免許、漁獲免許、銃器所持免許、自動車運転免許。またパスポート、ラジオ・光学機器の所持が禁止された。市民生活が全般的に脅かされ、経済分野から排除され、生活の糧を得ることができなくなり、ユダヤ人は貧困化した（例えば、医師はユダヤ人しか診療できなくなった<sup>(23)</sup>）。ところが、後述するように、ザルツブルク会談（1940年7月）の後になると、反ユダヤ政策はいつそう激しさを増した。

学校で身に付けた蓄財の才を生かしてスロバキア人を攻撃することのないようにしなければならぬ<sup>(24)</sup>として、ユダヤ人の公立学

校における学習権が制限されたのも、このころのことである<sup>(25)</sup>。

## (2) ザルツブルク会談（1940年7月）

ヌメルス・クラウス  
 穏健派の人数制限原則は、排斥の対象としないユダヤ人の存在を認めている。そのためスロバキアが完全に「ユダヤ人一掃（judenfrei）」の状態にあるとは言えない。これでは「ユダヤ人問題」の抜本的解決にはならない。ドイツは、スロバキア政府の「てこ入れ」による方向転換が必要と判断した。この問題を含めて、スロバキアとの間で「意見交換」「協議」するために、ポーランド侵攻（第二次世界大戦開戦）の翌年（1940年）、ヒトラーは、スロバキアの首脳部（大統領ヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）、首相ヴォイテフ・テウカ（Vojtech Tuka）、後の副首相兼内務大臣アレクサンデル・マツハ（Alexander Mach）など）をザルツブルクに招いた（図8、図9）。これがザルツブルク会談（1940年7月28日）である（ドイツ側の出席者は、総統ヒトラー、外務大臣ヨアヒム・フォン・リッペンロップ（Joachim von Ribbentrop）、スロバキア駐在ドイツ公使（予定）マンフレート・フォン・キリンガー（Manfred von Killinger）など）。

ドイツ側は、保護条約（1939年3月23日締結）の廃棄も辞さない強硬な姿勢で会談に臨み、スロバキア側に次の三項目を承諾させた。

- ① ドイツの外交政策とは一線を画し独自路線を歩もうとしていた内務大臣兼外務

(22) *Slovenská politika*, January 27, 1939, p. 2. ただし、引用は、ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190号合併号、2023年3月、108頁による。

(23) ユダヤ人はスロバキア人を家政婦として雇い入れることができなくなり、スロバキア人にも失職する者が出た。

(24) ニジニャンスキー「スロバキアのホロコース

ト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190号合併号、2023年3月、111頁。

(25) 同上110頁。



図8 ザルツブルク会談（1）（最前列左から、フォン・リッベントロップ、ティソ）

Caption: Slovakian President Jozef Tiso and German Foreign Minister Joachim von Ribbentrop in Salzburg, German-occupied Austria, 29 Jul 1940, photo 1 of 2 ww2dbase.

Photographer: Unknown.

Source: Polish National Digital Archives: World War II Database, [https://ww2db.com/image.php?image\\_id=16633](https://ww2db.com/image.php?image_id=16633), accessed on Apr. 12, 2024.



図9 ザルツブルク会談（2）（左から、トゥカ、フォン・リッベントロップ、ティソ）

Caption: Slovakian Prime Minister Vojtech Tuka, German Foreign Minister Joachim von Ribbentrop, and Slovakian President Jozef Tiso, Salzburg, German-occupied Austria, 29 Jul. 1940 ww2dbase.

Photographer: Unknown.

Source: Polish National Digital Archives: World War II Database, [https://ww2db.com/image.php?image\\_id=16638](https://ww2db.com/image.php?image_id=16638), accessed on Apr. 12, 2024.

大臣フェルディナンド・デュルチャンスキー（Ferdinand Ďurčanský）の更迭・排除。カトリックの立場を崩さなかったデュルチャンスキーが、引き続き外務大臣であり続ければ、将来的に、スロバキアとの関係にひびが入るのではないかと懸念されたからと言われている。

- ② 穏健派政権を廃し急進派による政権の刷新。これによって反ユダヤ政策はヌメルス・クラウスス人数制限原則から転換し、1942年の強制移送へと舵が切られ、ドイツを真似た「総統制」が敷かれ、一党独裁体制が強化された。
- ③ スロバキアの外交と内政の各分野に対して「助言」する顧問官(Berater)の派遣。ここでは、ユダヤ人問題を専門とする顧問官としてスロバキア・ユダヤ人の強制移送を「助言」した親衛隊大尉ディーター・ヴィスリチェニー（Dieter Wisliceny）<sup>(26)</sup>

が1940年9月に赴任したことを指摘しておく。

(26) ヴイスリチェニーは、ベルリンのドイツ帝国保安本部（Reichssicherheitshauptamt: RSHA）第IV B4課長（第IV局（ゲシュタポ）第B部（宗務部）第4課（通称ユダヤ人課）の課長（「ユダヤ問題担当課長」）アドルフ・アイヒマン（Adolf Eichmann）の部下であった。スロバキアでの任務を終えて、1943年2月にはサロニキ（テッサロニキとも）／ギリシアに赴任し、さらに1944年3月、ブダペスト／ハンガリーに赴任して、ユダヤ人の強制移送を仕切った。戦後スロバキアの国民法廷で死刑判決。ヴィスリチェニーについては、以下を参照。  
①Katarína Hradská, „Der deutsche Berater und die »Lösung der Judenfrage«“, *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 2002, SS. 300-317.（フラツカ「ドイツ顧問官とスロバキアにおける『ユダヤ人問題の解決』」（木村和範訳）、『経済論集』（北海学園大学）、第71巻第1号、2023年6月。）；②“Dieter WISLICENY,” Website of the *Holocaust Historical Society*, <https://www.holocausthistoricalsociety.org.uk/contents/germanbiographies/dieterwisliceny.html>, accessed on May 7, 2024.

### (3) ザルツブルク会談以後

ザルツブルク会談により、スロバキア政府の執行部はフリンカ・スロバキア人民党急進派に入れ替わった。ヴォイテフ・トゥカ、アレクサンデル・マッハなどが実権を掌握した政府の下では、<sup>ヌメルス・クラウス</sup>人数制限原則が措定したような排除すべきユダヤ人の上限はなくなり、ユダヤ人への排撃は厳しさを増した。穏健派のティソなどは政権に残ったが、以後は急進派を批判したり反対したりすることはなかった。ザルツブルク会談以降は、実質的に両派の違いがなくなった（急進派に一本化した）と見てよい。

以下では、ザルツブルク会談後（1940年9月）に執られた反ユダヤ措置をまとめて述べることにする。

・宗教団体を除きあらゆるユダヤ人団体が解散させられ、政府公認の「ユダヤ人センター（Ústredňa Židov: ÚŽ）」<sup>(27)</sup>が創設され、ユダ

ヤ人の登録が義務づけられた。これは、政府のユダヤ人政策を効率的かつ円滑に周知させるために設置された。1933年に政権を掌握したナチスは、ドイツにおける国民生活の全分野をナチスの政策と整合させようとした。これを“Gleichschaltung”（「ナチス化」）と言うが<sup>(28)</sup>、その意味ではユダヤ人センターの創設はスロバキア版の“Gleichschaltung”の一例と言えるであろう。・「スロバキアの経済活動からユダヤ人を排除し、ユダヤ人の財産をキリスト教徒の所有へと移転（アリア化）するために必要なことのすべてを実行する」ための国家機関として中央経済局（Ústredného hospodárskeho úradu: ÚHÚ）を設置し、その初代局長にアウグスティン・モラーヴェック（Augustín Morávek）を据えた<sup>(29)</sup>。

(27) これは、例えばポーランド総督府やハンガリーなどでは「ユダヤ人評議会（Judenrat）」と言われていた。

(28) その一例としては、「ヒトラー青年団法」（1936年12月1日施行）の制定を挙げることができる。この法律は、それまでは形式的にも実質的にも任意団体であったヒトラー青年団（Hitlerjugend）への加盟を10歳から18歳までのドイツの少年すべてに義務づけた。同法第1条には「帝国内のドイツ青年はすべて、ヒトラー青年団に統合される。」とある。（“Gesetz über die Hitlerjugend vom 1. Dezember 1936, aufgehoben durch das Kontrollratsgesetz Nr. 1 vom 20. September 1945”, Website of the *Verfassungsgesetze des Deutschen Reichs. (1933–1945)*, <https://www.verfassungen.de/de33-45/hitlerjugend36.htm>, accessed on Mar. 22, 2024.) これにより、ボーイスカウトなどの任意団体を含めてすべての青年運動組織が解体されてナチスの下に一元管理されることになった。Cf. “Law on the Hitler Youth”, Website of the *alpha history*, <https://alphahistory.com/nazig>

[ermany/law-on-the-hitler-youth/](https://www.encyclopedia.ushmm.org/content/en/article/gleichschaltung-coordinating-the-nazi-state), accessed on Mar. 22, 2024.

なお、本文における“Gleichschaltung”の字義は、「調整、統制、画一化、同期（シンクロ）」である。アメリカ合衆国ホロコースト記念博物館（United States Holocaust Memorial Museum: UNHMM）によれば、「この言葉[“Gleichschaltung”]の意味は、“coordination” [整合化、調整] または “synchronization.” [同期をとること、シンクロさせること]」である。この下でドイツの政治、社会、文化の各分野における営為がナチスの目標と整合するように再整理 [再調整] (rearranged) された (Cf. <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/article/gleichschaltung-coordinating-the-nazi-state>, accessed on Mar. 23, 2024)。このことを参酌して、ここでは事柄を分かりやすくするために訳語として「ナチス化」を当てた。このような真の意図を隠蔽するような表現様式は、裁判抜きで即刻射殺することを遠回しに「特別措置 (Sonderbehandlung)」と言い換えたり、ユダヤ人を絶滅させることを「最終解決 (Endlösung)」と言い換えたりするのと同じである。

(29) 1940年1月31日に首相府に設置された首相

それだけではない。ザルツブルク会談（1940年夏）によって急進派が政権を握ると、憲法が改正された（1940年法律第210号）。これにより、新憲法施行後1年間に限って政府には、「(a)スロバキアの経済生活と社会生活の各場面からユダヤ人を排除し、(b)ユダヤ人財産をキリスト教徒の所有に転換させるために、……必要とされる」措置を執ることが認められた。この憲法は、立法府が行政府に対して固有の権限たる立法権の一部を委譲したという意味で、「授權法（Ermächtigungsgesetz）」であった<sup>(30)</sup>。これに基づいて1年の間に、様々な政令が制定され、スロバキアのホロコーストは、そのピークとしての強制移送に向かって進む準備が整えられた。「授權法」に基づく政策立案とその実行は、ナチスが政権を奪取した後のドイツでも見られ、ここにナチス・ドイツとの共通性がある。しかし、後述するように、1942年憲法にわざわざユダヤ人の強制移送を定め、それを実行したことは、スロバキアにおけるユダヤ人問題「解決」の特異性の最たるものと言えよう。

1941年9月には、ユダヤ法（ユダヤ人の法

的地位に関する政令、1941年政令第198号）が制定された。これは、ドイツが制定したニュルンベルク法よりもさらに峻厳な人種差別法であり、祖父母の三人以上がユダヤ人である者はすべてユダヤ人であると定められ、祖父母の一人がユダヤ人である場合には、混血ユダヤ人と定義された<sup>(31)</sup>。ユダヤ法が施行された数日後には、ユダヤ人にユダヤ人マーク<sup>(32)</sup>の着用が義務づけられ非ユダヤ人とは容易に識別できるようになった。

農地以外のアーリア化を推進するための中央経済局（上述）と農地のアーリア化を担当した国土庁による一連のアーリア化によって資産を奪われ、生活の術を失い貧困化したユダヤ人が大量に発生し、これが社会問題となった。ところが政府には、福利厚生財源がなかった。このため1941年9月にはセレチ、ヴィーネ、ノヴァーキーの三ヶ所に公共工事、木工などに当たる労働者としてのユダヤ人を収容するための施設（労働収容所）が建設された（図10）。なお1942年になると、強制移送を待つ者のための経過収容所としての機能をも果たすようになった。

しかし、労働収容所を建設して、貧困ユダヤ人の増加に伴う社会問題を国内で解決するには経費の点で限界があった。そのために、

府経済局の権限が明確ではなくアーリア化の実行においては「二重構造」体勢と言われたために、モラーヴェクは1940年9月に大統領直属の中央経済局に改組転換することを主張した。これにより、中央経済局と同局長には、それぞれ省と大臣に相当する権限が与えられた。ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190号合併号、2023年3月、112頁参照。

(30) ニジニャンスキー＝ブシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『経済論集』（北海学園大学）、第71巻第4号、2024年3月、33頁。

(31) 同上55頁。なお、その2年前の1939年政令第63号（同年4月制定）では、申告者の信仰告白に基づいてユダヤ人が定義されている（同上45頁）。

(32) ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳）、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190号合併号、2023年3月、113頁。ユダヤ人マークは「差し渡し6センチの黄色い星で、幅5センチの水色の布で縁取りされていること」と定められた。

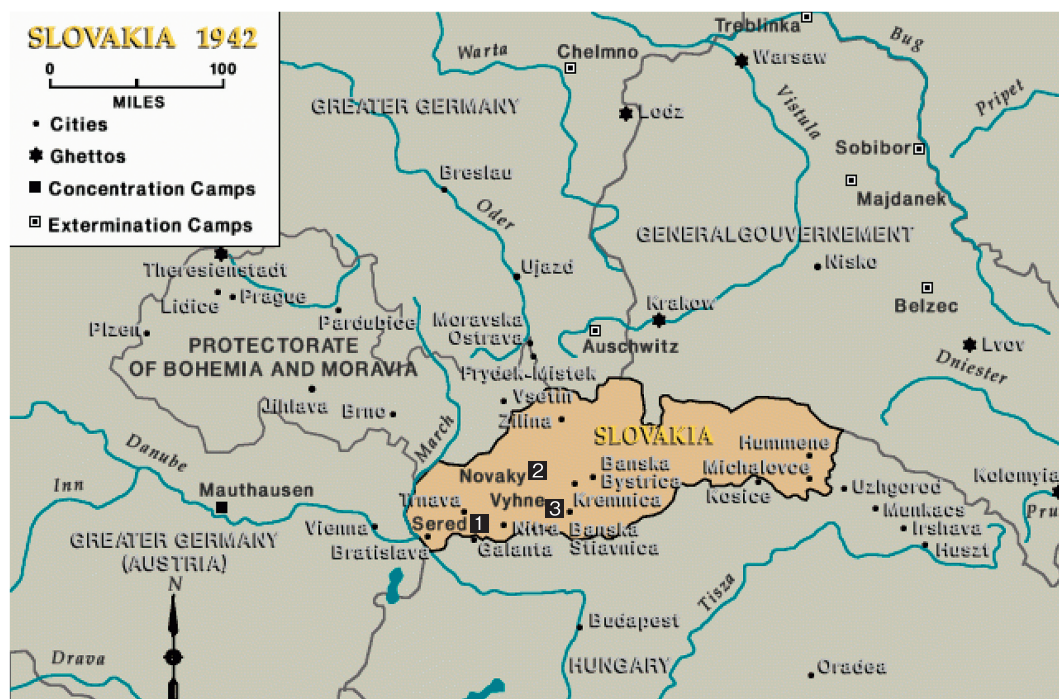


図10 スロバキアの労働収容所と旧ポーランドの強制収容所 (1942年)

(訳注) スロバキアの①～③(セレチ (Sered'), ノヴァキー (Novaky), ヴィーネ (Vyhne))は強制収容所(労働収容所)であるが、通過収容所としても機能した。旧ポーランドの□は絶滅収容所。テレジーンシュタット(ボヘミア・モラヴィア保護領)のチェコ語の地名はテレジーン (Terezin)。

旧ポーランド領内の六大強制/絶滅収容所の開所日等は以下のとおり(アウシュヴィッツとヘウムノの収容所はドイツ領ポーランド、その他はポーランド総督府にあった)。

トレブリンカ (Treblinka) (1942年7月23日開所, 1943年10月19日放棄)

ソビボル (Sobibor) (1942年4月～1943年10月14日大脱走, その後解体)

マイダネク (Majdanek) (1941年10月1日開所～1944年7月23日解放, 正式名称はルブリン (Lublin) 強制収容所)

ベウゼッツ (Belzec) (1941年12月～1942年12月任務終了, 解体)

アウシュヴィッツ (Auschwitz) (1940年6月開所～1945年1月27日解放)

ヘウムノ (Chelmo) (1941年12月9日ユダヤ人第一陣到着～1945年1月17日放棄)。

(出所) Slovakia, 1942, *Holocaust Encyclopedia*, Website of United States Holocaust Memorial Museum, <https://encyclopedia.ushmm.org/content/en/map/slovakia-1942>, accessed on Jan. 21, 2024.

さらに安直な施策として大量強制移送が着目されることになった。ドイツ本国からユダヤ人問題の専門家として派遣されていた顧問官 ヴイスリチェニー(前出)もこれに賛同した、というよりは強制移送計画の立案と実行に主導的役割を演じた。ユダヤ人の強制移送計画が政府の会議(國務院)に報告されたのは、急なことであった。最初の移送の3週間前

(1942年3月6日)になって、ティソは唐突にも次のように述べた。なお、後に触れるが、國務院副議長(カトリック司祭)であったヤーン・ヴォイタシュヤーク (Ján Vojtašák) はこの会議に出席していた<sup>(33)</sup>。

(33) Cf. "Around the Jewish World: Slovak Bishop's Wartime Record Proves He's No Saint, Historians Say," Website of the *Jewish Telegraphic Agency*

ユダヤ人問題は、[ユダヤ人を] ウクライナに再定住させることによって漸次解決されるべき問題である。ユダヤ人には住むべき土地をすでに通告してある。ユダヤ人が我が国の領土を離れば、スロバキア共和国の国民ではなくなる。ユダヤ人には14日の間、食料が提供される。スロバキア共和国はユダヤ人一人当たり500ライヒスマルクを支払う義務を負う<sup>(34)</sup>。

(JTA), <https://www.jta.org/archive/around-the-jewish-world-slovak-bishops-wartime-record-proves-hes-no-saint-historians-say>, accessed on Mar. 21, 2024.

- (34) ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト (1938年～1945年)」(木村和範訳), 『学園論集』(北海学園大学), 第189・190号合併号, 2023年3月, 116頁。この一人当たり500ライヒスマルクの算定根拠は、当初職業訓練費とされた。しかし、カメネツが指摘するように、それは移送ユダヤ人の財産請求権をドイツ側が放棄する見返りであった。(Cf. Ivan Kameneč, “The Deportation of Jewish Citizens from Slovakia in 1942,” in: Dizider Tóth *et al.* (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia*, 2002, p. 124.)
- (35) クロアチア駐在ドイツ大使ジークフリート・カシェ (Siegfried Kasche) は、クロアチアが1942年10月9日に再定住したユダヤ人一人当たり30ライヒスマルクをドイツ側に支払うと本国に報告した(エドゥアルド・ニジニャンスキー「1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉—スロバキア, ルーマニア, ハンガリーを例にして—」(木村和範訳), 『学園論集』(北海学園大学), 第189・190号合併号, 2023年3月, 150頁)。

スロバキアの金銭支払はクロアチアとは比べものにならないものであったが、一人あたり500ライヒスマルクのことは、数次に亘ってドイツとスロバキアの間で取り交わされた口上書に記載されている。一人当たり500ライヒスマルクの表向きの根拠は職業訓練費とされたが、その実はユダヤ人財産への請求権の放棄の見返りであった。このことは、以下に引用する第5回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議事録(1942年9月10日～30

こうして、多額の金銭を支払った上でユダヤ人を強制移送するという類例を見ない措置が、「独立国」スロバキアの国策として進められることになった<sup>(35)</sup>。ティソの報告を受けて内務省第14局は移送のために必要な具体策の検討に着手した。しかし第14局長ゲイザ・コンカ (Gejza Konka) が策定した移送計画は杜撰であった。そこで内務省第14局では大幅な人事異動があり、後に「ユダヤ人の王 (Židovský kral’)」と揶揄されることになるアントン・ヴァシェック (Anton Vašek) が、1942年4月に内務大臣アレクサンデル・マツ

日、於ブラチスラバ)の抜粋からも明らかである。「……第31項 ユダヤ人の再定住。プレスブルク [ブラチスラバ] 駐在ドイツ公使館とスロバキア外務省とは口上書 (1942年4月29日付ドイツ大使館口上書第2565号, 1942年5月1日付口上書第2578号, 1942年6月23日付スロバキア外務省口上書 (1942年3月2日, 第61295号)) を交換し、ドイツ帝国領土内に連行されたか、連行が予定されるスロバキア・ユダヤ人一人につき500ライヒスマルクをスロバキア政府がドイツ政府に支払うことで合意を見た。上記口上書の交換にあたり、ドイツ政府は、ドイツ帝国領に連行されたユダヤ人がスロバキアに残した財産に対するさらなる請求権を放棄した。1942年6月23日付のスロバキア外務省の口上書で想定された支払問題を解決するために、ブラチスラバ駐在ドイツ公使館は直ちにスロバキアのしかるべき部局に連絡して、すでに帝国の領土に連行したユダヤ人の人数、ならびにスロバキア政府の支払額を決定するものとする。スロバキア財務大臣は、かく決定された金額 (この金額も同様にブラチスラバ駐在ドイツ公使館とスロバキアのしかるべき部局との協議で決定されるものとする。) を支払期日までに親衛隊全国指導者 [ヒムラー] に送金するものとする。……」(引用は、ニジニャンスキー=プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト (1938年～1945年)」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第4号, 2024年3月, 85頁～86頁による。)



ハ直々の指名により内務省第14局長に就任した<sup>(36)</sup>。

以上に述べたように、1940年夏のザルツブルク会談の前後から1942年春までの2年足らずで、1942年3月に始まる強制移送のための様々な準備(ユダヤ人の定義(1941年ユダヤ法による)、ユダヤ人財産収用(アーリア化)担当部局の設置(中央経済局の設置、局長モラーヴェクの権限強化)、ユダヤ人の移送担当部局の人事刷新(内務省第14局長へのヴァシェックの登用)など)が行われた。こうして、強制移送のために自国の人的物的資源(収容施設、輸送手段、警備兵)を投入する他に、一人当たり500ライヒスマルクを支払って1942年ユダヤ人強制移送(ダヴィデ作戦<sup>(37)</sup>)が実行されることになった。ダヴィデ作戦は1942年3月25日に始まり、約5万8000人を移送して同年10月20日に終わった。しかし、強制移送の法的根拠(憲法、1942年法律第68号)が制定されたのは、移送が始まって2ヶ月ほどが経過した5月15日であった。この日に制定された1942年憲法第1条には次のように定められ、さらにそれまでの移送が遡及して合法とされた。

第1条 ユダヤ人は、スロバキア共和国の領土から再定住させることができる。<sup>(38)</sup>

敗戦によって消滅するまで、スロバキア共和国は、その第1条にユダヤ人の強制移送を定めた憲法をもつ特異な国家としてあり続けた。

1942年のユダヤ人強制移送(「ダヴィデ作戦」)では、ユダヤ人5万7628人が57本の移送列車で強制移送された<sup>(39)</sup>。約12両編成の移送列車1本当たり、約1000人が移送された(原則として1000人を集めてから移送した)。家畜運搬用有蓋貨車1両当たり約80人が詰め込まれた。第1便は3月25日にポプラド(Poprad)(ジリナの東約143<sup>km</sup>)を出発し(図10参照)、翌日スロバキア国境を越えた。移送された約5万8000人のユダヤ人のうち、アウシュヴィッツには1万9000人弱が(表3参照)、ポーランド総督府のルブリン県には約3万9000人が移送された。さらに、社会問題となった貧困ユダヤ人の雇用を確保する名目で設置された労働収容所(セレチ、ノヴァーキー、ヴィーネ、図10参照)と第6労働大隊<sup>(40)</sup>には約4000人が収容されてい

(36) ヴァンダ・ラジカン「スロバキア内務省第14局長アントン・ヴァシェックと強制移送にたいするその責任」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学)、第71巻第1号、2023年6月、41頁。

(37) Cf. Wolf Oschlies, „Aktion David — Vor 65 Jahren wurden aus der Slowakei 60.000 Juden deportiert“, 12. April 2007, Zukunft braucht Erinnerung: <https://www.zukunft-braucht-erinnerung.de/aktion-david-vor-65-jahren-wurden-aus-der-slowakei-60000-juden-deportiert/>, accessed on March 29, 2023.

(38) 引用は、ニジニャンスキー＝プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト(1938年～1945年)」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学)、第71巻第4号、2024年3月、脚注238(84頁)による。この脚注には、憲法第1条～第3条、第5条が引用されている。

(39) 同上85頁。

(40) 正規軍の軍籍を剥奪されたユダヤ人の元兵士と元将校からなる労働部隊で主として土木工事に従事した。1942年の強制移送のとき、多

た<sup>(41)</sup>（国内に残ったユダヤ人は約1万5000人であった）。

1942年3月に始まるスロバキア・ユダヤ人の大量移送は、スロバキアにおけるホロコーストの頂点を示す出来事であるが、この強制移送がドイツの主導によるものか、スロバキア側がイニシアティブを執って行われたかについては、戦後になると互いに相手国に責任をなすりつけて意見が対立し、必ずしも明確ではない。しかし、ドイツ側との間で行われたユダヤ人の移送を巡る協議で、スロバキア側が拘った条件は、移送されるユダヤ人が所有する資産をスロバキアに帰属させることであった<sup>(42)</sup>。その一方で、ブラチスラバに駐在していたドイツ公使ハンス・ルディン<sup>こだわ</sup>は、本国に対して、ドイツは特別の圧力を加えていないのに、スロバキアは強制移送に諸手を挙げて賛成している、と報告している<sup>(43)</sup>。これ

らを勘案すると、ドイツが移送ユダヤ人の財産への請求権を放棄し、スロバキアに帰属させるならば、名目上定住のための職業訓練費として一人当たり500ライヒスマルクを支払ってもなお、プラスになると試算した上で、スロバキア政府は強制移送に率先して主体的に取り組んだのであろう。あるいはユダヤ人の「受入」に積極的であったドイツ側の意向を察知したスロバキア側が、この機を逃すまいとしたことは、大いに考えうることである。1942年当時はドイツにとっては、前線への兵站の確保が最優先されるべきものであって、友邦たるスロバキアに対してユダヤ人の強制移送を無理じいしなかった（あるいはできなかった）という事情もある<sup>(44)</sup>。これらを勘案すれば、スロバキアにおける強制移送は、互いに相手方の心中を「忖度」した上で「共謀」したスロバキアとドイツの間に醸成された「阿吽の呼吸<sup>あうん</sup>」によるものであったと言えるのではあるまいか。

10月になって、ダヴィデ作戦（強制移送）は中止された（ただし、ドイツに占領された1944年には、占領軍によって強制移送が再開

数が逃亡した。1943年6月解体。“Bratislava During the Holocaust: The Sixth Brigade of the Slovakian Army,” Website of the *Yad Vashem*, [https://www.yadvashem.org/yv/en/exhibitions/communities/bratislava/sixth\\_brigade.asp](https://www.yadvashem.org/yv/en/exhibitions/communities/bratislava/sixth_brigade.asp), accessed on Mar. 18, 2024.

(41) ニジニャンスキー＝プシツォヴァ「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938年～1945年）」（木村和範訳、『経済論集』（北海学園大学）、第71巻第4号、2024年3月、89頁～90頁。

(42) 1941年11月にドイツはスロバキア、ルーマニア、クロアチアの三国にドイツ領に居住する各国の国籍を所有するユダヤ人の東方への移送の可否を尋ねた。これには各国とも移送に賛成したが、スロバキアだけはユダヤ人財産の自国帰属を強く主張した（脚注41の訳文80頁）。1942年9月10日～30日に開催された第5回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議の議事録参照（脚注35参照）。

(43) 1942年4月ブラチスラバ駐在ドイツ公使ハン

ス・ルディン（Hanns Ludin）発本国宛文書によれば、以下のとおりである。「スロバキア政府は、ドイツが何ら圧力を掛けたわけでもないのに、スロバキアからの全ユダヤ人の強制移送に同意している。スロバキア司教座が介入したにもかかわらず、大統領も個人的には強制移送に同意した。強制移送の対象は全ユダヤ人である。」（ニジニャンスキー「1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉—スロバキア、ルーマニア、ハンガリーを例にして—」（木村和範訳、『学園論集』（北海学園大学）、第189・190合併号、2023年3月、152頁。）

(44) 同上167頁。

された)。この移送中止の理由については、様々に指摘されている<sup>(45)</sup>。

### 3. 歴史修正主義の台頭とそれを巡る議論

社会主義時代のスロバキアではホロコースト研究が、さほど重視されなかったと言うべきか、忌避されたと言うべきか、1970年代に執筆されたイヴァン・カメネツ (Ivan Kamenc) の『悲劇の軌跡』<sup>(46)</sup>より他には、見るべきものはなかったと言われている<sup>(47)</sup>。しかも、これが公刊されたのは1991年であった。1993年1月1日以降、「チェコおよびスロバキア

(の) 連邦共和国」は連邦制を解消してチェコとスロバキアに分離され、それに伴ってスロバキアはチェコとともにそれぞれが独立国になった(表1参照)。その結果、様々な分野でホロコーストを研究テーマとする歴史学者が出てきた。それと同時に、1993年以降のスロバキアでは、ニジニャンスキーによれば、分離独立によって思想的な「空白」が生まれた。ヴラジミル・メチアル (Vladimir Mečiar)<sup>(48)</sup>を首班とする内閣は、その空白をカトリックとナショナリズムで埋めようとした(図11参照)。

さらにまた1993年にスロバキアが独立すると、それまでは外国生活を強いられていたナショナリストが帰国するようになった。たとえば、イタリアから帰国したミラン・スタニスラフ・デュリカ (Milan Stanislav Ďurica)<sup>(49)</sup>がそうである。デュリカは、すでにスロバキアのホロコーストがヨーロッパ各国の被害に比べて小さいとして、スロバキア・ホロコーストを相対化する著作を出版していた。メチアル内閣の文部科学大臣エヴァ・スラフコフスカ (Eva Slavkovska) は歴史副読本の執筆をこのデュリカに委嘱した。そして、スロバキ

(45) その理由として挙げられるのは、強制移送すべきユダヤ人が十分に移送された(それ以上は移送する必要がない)、ドイツ顧問官ディーター・ヴィスリチェニーへの賄賂が功を奏した、西側諸国やバチカンが介入した、「作業部会」(ユダヤ人センター内の非合法救援組織)が働きかけた、枢軸国の戦況が悪化した、などである(カタリーナ・フラツカ「ドイツ顧問官とスロバキアにおける『ユダヤ人問題の解決』」(木村和範訳『経済論集』(北海学園大学)第71巻第1号, 2023年6月, 80頁)。なお、「強制移送すべきユダヤ人が十分に移送された。」という見解はニジニャンスキーによる。これについては、ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト(1938年~1945年)」(木村和範訳, 『学園論集』(北海学園大学), 第189・190号合併号, 2023年3月, 脚注47(115頁以下)参照)。

(46) Ivan Kamenc, *On the Trail of Tragedy: The Holocaust in Slovakia*; [translation: Martin Styan], Bratislava: H & H, 2007. [Original Title: *Po stopách tragédie*, Bratislava: Archa, 1991.]

(47) スロバキア・ホロコーストの研究が低調であったのは、イスラエルが次第にアメリカ寄りになっていったことの裏返しとして、イスラエルがソ連とは敵対的な関係になり、それがスロバキアの歴史研究に影響を与えたことと無関係ではないと言われている。

(48) メチアル内閣の在任期間は、1993年1月1日~1994年3月16日および1994年12月13日~1998年10月30日である。メチアル内閣については以下を参照。①林忠行「スロヴァキアの国内政治とEU加盟問題 1993-2002」『日本比較政治学会年報』5, 2003年; ②寶槻和子「体制転換期のスロヴァキア—メチアル政権の『民主主義』—」『東京大学法学部政治学研究科リサーチペーパー』2004年。

(49) ミラン・スタニスラフ・デュリカ (1925年~2024年)。チェコスロバキア共和国クリヴェーニ生まれ(現スロバキア)。イタリア、オーストリア、ドイツの大学に学ぶ。1961年、博

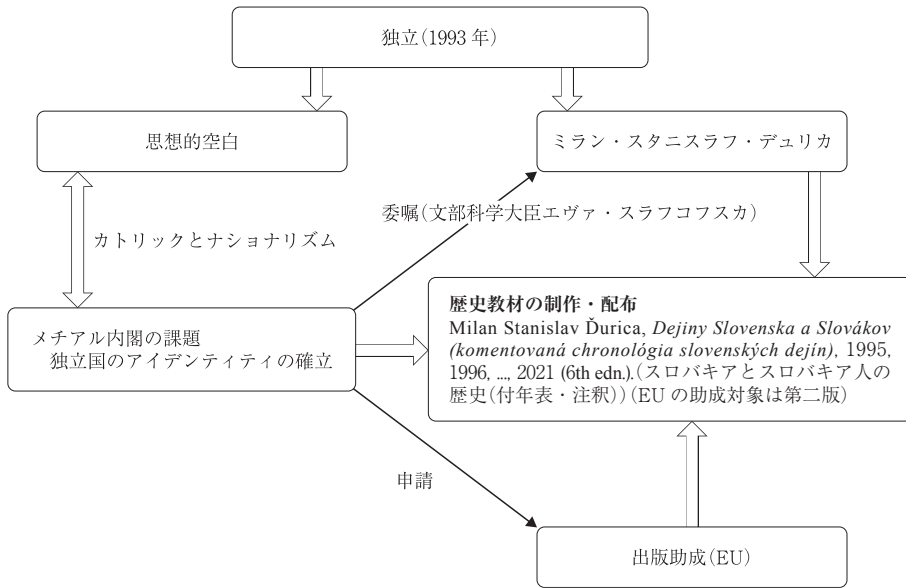


図 11 スロバキア共和国の独立と歴史教材制作

ア政府はそのための出版助成金を欧州連合 (EU) に申請した。この出版助成制度は、特に EU への申請加盟準備国を対象にしていた。こうして EU からの出版助成を受けた歴史教材が、デュリカの『スロバキアとスロバキア人の歴史』（第 2 版，1996 年刊）である。後に項を改めて取り上げるが、この著書は、フリンカ・スロバキア人民党が統治した戦前

戦中の一党独裁国家スロバキアを肯定的に評価している。ここではそのような著作が受け入れられる「素地」に触れておく。

2004 年 1 月 1 日に欧州連合 (EU) に加盟したスロバキアでは、2009 年 1 月 1 日にユーロに切り替えられるまで、通貨単位はそれ以前と同様にスロバキア・コルナ (Slovak koruna) である。ここでは、ユーロに切り替わるまでの間 (1993 年 2 月 8 日～2008 年 12 月 31 日) 流通していた旧 1000 スロバキア・コルナの肖像には、アンドレイ・フリンカが使用されていたことに注目したい (図 12)。すでに述べたように、フリンカは、カトリックに基づくナショナリズムを標榜した司祭である。戦前のスロバキアを支配した政党 (フリンカ・スロバキア人民党) の前身であるスロバキア人民党の創立者のひとりでもある。フリンカは 1938 年に死亡し、自治政府時代から敗戦

士論文 (『未公開ドイツ外交文書によるスロバキアならびに同国と第三帝国の関係に関する研究—ミュンヘン協定から第二次世界大戦まで— (*La Slovacchia e le sue relazioni con il Terzo Reich. Dagli accordi di Monaco all'inizio della seconda guerra mondiale (secondo i documenti diplomatici tedeschi editi e inediti)*)』) によりパドヴァ大学で学位取得。1987 年、『ヨーロッパ・ユダヤ人の悲劇におけるスロバキアの占有率 (*Slovenský podiel na európskej tragédii Židov*)』を出版 (スロバキア・ユダヤ人の被害の規模は他国に比べて小さかったと主張)。1993 年、スロバキアに帰国、コメニウス大学神学部教授。



図12 スロバキア 1000 コルナ紙幣 (1993年2月8日～2008年12月31日, 見本) に使用されたアンドレイ・フリンカの肖像

Source: Aurea eShop, <https://www.aurea.cz/katalog/bankovky/slovenska-republika-1993/1000-koruna-1-8-2007-p-00000000-bankovni-vzor-hej-sk49v1-bhk-sk15dp-n-unc-bcsr3sk049v1>, accessed on Dec. 12, 2023.

までのスロバキアの内政と外交に直接関与することはなかった。しかしながら、党名にその名を刻む聖職者ファシズムの理論的指導者であった。

そのフリンカの肖像を印刷した旧 1000 スロバキア・コルナ紙幣が流通したことを勘案すると、チェコとの連邦制を解消したスロバキアでは、反ユダヤ主義の政治を理念的に先行領導した政治家フリンカが「復活」したかに見える。EU に加盟し、通貨単位がスロバキア・コルナからユーロに変わり、2009年1月1日には紙幣も新たになった。ユーロへの移行はフリンカ・スロバキア人民党からの決別を意味するであろうか。答えは「否」である。ホロコーストをなかったことにしたり、矮小化したり、相対化したり、あるいはホロコーストを主導した当時の政治家の復位を主張したりする見解が見られるようになったからである。社会主義時代にはけっして公には表出することがなかったのに、ホロコーストがあったことを広い意味で否定する言説 (ホロコースト否定論, 歴史修正主義) が出現し

た。デュリカの歴史教材を助成対象図書としてスロバキア政府が EU に申請したときは、フリンカ・スロバキア人民党による一党独裁体制を肯定的に捉える素地があったからである。このことは、旧 1000 スロバキア・コルナ紙幣が示している。

以下では、ニジニャンスキーとボホヴァの見解<sup>(50)</sup> に即して、ホロコースト否定論を巡ってなされた三つの論争を取り上げる。

#### (1) デュリカ『スロバキアとスロバキアの人々の歴史』(1995年刊行)<sup>(51)</sup>

1918年建国のチェコスロバキア共和国から1939年に独立したフリンカ・スロバキア人民党支配下のスロバキア共和国のことを、ミラン・スタニスラフ・デュリカは、国としての独立を勝ち取ったスロバキア人にとっては最初の国と見た。そして、1000年の歴史を持つスロバキア人にとって二番目の独立国が、1993年に誕生した新生スロバキア共和国である。二つの独立国が1939年と1993年に誕生したことは歴史的事実であるが、メチアル内閣は、この二つの独立国をナショナリズムによって縫い合わせようとしたと考えられる。1993年の独立で中心的役割を演じたヴラジミル・メチアルは、新生国家スロバキアの思想基盤を堅牢化しようとして、国の由来を戦前のスロバキア共和国に求めたのであ

(50) ニジニャンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳), 『経済論集』第71巻第2号, 2023年9月。

(51) 以下の叙述は主として前注訳文50頁以下による。

る。そして、スロバキア政府はそのような考え方を基本方針とする小中高向けの歴史教材を出版することにした。

ミラン・スタニスラフ・デュリカがイタリアから帰国したのは、そのような時期と重なっている。このデュリカに、メチアル内閣の文部科学大臣エヴァ・スラヴコヴスカ(Eva Slavkovská)は、学校向けの歴史教材の執筆を委嘱した(1995年)。この出版事業に当たって、スロバキア政府は、EUへの加盟準備国が申請することができる助成金を申請し、その交付をEUから受けた(後に助成金の総額は8万ECU<sup>(52)</sup>)であることが明らかになった)。その著作がデュリカ著『スロバキアとスロバキアの人々の歴史(*Dejiny Slovenska a Slovákov*)』(Bratislava: Slovenské pedagogické nakladateľstvo [スロバキア教育出版社], 1995年)の第2版(1996年版)である<sup>(53)</sup>。歴史教材として執筆されたこの著書は、戦前戦中の全体主義体制下のスロバキア共和国を賛美し、戦争犯罪人として処断された大統領ヨゼフ・ティソを優れた指導者として称讃した。そして、スロバキア・ユダヤ人の強制移送の責任をドイツだけに負わせたりするような記述もあった。しかも、デュリカの歴史教材は、戦前のスロバキア共和国をもって、新生スロバキアに直接先行する国とした。ドイツの肝煎りで1939年にチェコス

ロバキアから独立し、前項で述べたようなホロコースト国家となったスロバキア共和国を、新生スロバキアが継承したと見なしたのである。

スロバキアは1000年間、この地にあったが、ハプスブルク時代にはハンガリーに支配され、その後はチェコ人が君臨するチェコスロバキアに支配され、ようやく1939年にドイツの支援で独立を果たした、ところが、戦後になると、スロバキアはソ連とチェコスロバキア政府の支配下にあることを余儀なくされた。スロバキアが独立国であったのは、戦前の6年間存在していたスロバキア(第一)共和国と1993年独立の新生スロバキアである。—デュリカの歴史教材(副読本)の基本的なスタンスはこのようなものであり、そのためにこの著書には、読者に対して、ともに独立を遂げたチェコ共和国(および旧チェコスロバキア共和国)への敵愾心を植え付けさせかねない内容が記載されていた。

これに対してスロバキア国内の歴史研究機関や歴史研究者が批判の声を上げた。最終的にこの教材は回収されることになった。それを実現させるに当たって大きな力を発揮したのは、欧州議会の三人の議員であった(ヘドヴィック(ヘディ)・ダンコーナ(Hedwig “Hedy” d’Ancona)(オランダ)<sup>(54)</sup>、レオニー・ファン・ブラーデル(Leonie van Bladel)(オランダ)<sup>(55)</sup>、オトー・バルドンク(Otto Bardong)(ドイ

(52) ECU (European Currency Unit (欧州通貨単位))とは、1979年～1998年に、欧州共同体(EC)と欧州連合(EU)で使用されたバスケット通貨。1999年1月1日にECUとユーロ(EUR)が1対1で置換された。

(53) この著書は、2021年には第6版がLúč Publishing Houseから発行されている。

(54) 質問状の件名は「スロバキアの教材における反ユダヤ主義」、質問番号は「E-2343/97」。

(55) 質問状の件名は「スロバキアによるPHAREプログラム助成金の不正利用」、質問番号は「E-2469/97」。

ツ)<sup>(56)</sup>。三人の論点は多岐に渡るが、デュリカの著書にはその歴史認識に看過できない内容の記述があること、およびそのような著書の出版に対してEUが助成したことの妥当性を共通して問題視している。

ダンコーナ(オランダ)がEUに提出した、その質問は以下のとおりである。

1. 欧州委員会は、スロバキアの小学校向けのスロバキア史の教材の中で記載された絶滅収容所へのユダヤ人大量移送について誤りがあることを承知していますか。

2. 欧州委員会は、カトリック司祭ミラン・デュリカが執筆したこの教材が、欧州連合からの資金で出版されたことを承知していますか。

3. そうであれば、欧州委員会は、これらの資金が提供されたときの出版計画書を開示できますか。また、当該資金の用途の監査方法を開示することは可能ですか。

4. 欧州委員会には、この資金を引き上げる予定はありますか。また、この著書の配布を確実に差し止めることは可能ですか。

5. 欧州委員会は、論争的になっているこの教材の発するメッセージが、「人種差別撤廃のための欧州年(European Year Against Racism)」の趣旨に反しているとお考えですか。

6. 今後も実施される第三国への援助が、欧州連合への加盟基準となっている民主主義と公民権に違背する目的で悪用されないようにするために、欧州委員会はそのような行動を取るおつもりですか<sup>(57)</sup>。

ファン・ブラーデル(オランダ)の質問は以下のとおりである。

スロバキアでは小学校向けの歴史書が出版されましたが、それは外国人を憎悪させることになりました。そのような見解を掲載する出版物の刊行のために、PHAREプログラム補助金が将来悪用されないようにするために、欧州委員会は何か策を講じましたか<sup>(58)</sup>。

バルドンク(ドイツ)の質問は以下のとおりである。

欧州委員会は、M. S. デュリカの著書『スロバキアとスロバキアの人々の歴史』[第2版](スロバキア教育出版社刊、ブラチスラバ、1996年2月)[以下、「本書」]を出版するに当たりPHARE基金から補助金を支出しました。本書には、小、中、高の各学校における歴史教材が収録されています。このことについて、以下のよ

(56) 質問状の件名は「著書『スロバキアとスロバキアの人々の歴史』へのPHARE基金からの補助金について」、質問番号は「E-2644/97」。

(57) 引用はニジニャンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳、『経済論集』(北海学園大学)、第71巻第2号、2023年9月、53頁による。

(58) 引用は前注訳文53頁による。

うにご質問します。

1. この補助金の額はいくらで、交付の年はいつでしょうか。

2. 本書は、先史時代以降のスロバキアの歴史を基にして近隣諸国のうち特にチェコに敵対的なイメージの国民的神話を作り出そうするばかりか、反ユダヤ的傾向を強調していますが、そのことを承知していますか。

3. 特に、国家社会主義の衛星国におけるティソ政権（1939年～1945年）のことが、好意的に記述されていることをご存知でしょうか。

4. 本書の刊行後、その書評を諸外国から入手したことはありますか。

5. 教室での使用を目的とする本書のような出版物への助成を、今後は、いっそう徹底して監査することはできませんか<sup>(59)</sup>。

このような質問を検討した上で、欧州委員会はデュリカの教材を回収することにした。欧州委員会を代表したハンス・ファン・デア・ブロック（Hans van der Brock）は、スロバキア政府と協議の上、同政府がデュリカの著書を回収したとして、歴史教材問題の顛末を次のように総括した（1997年9月4日）。

スロバキア史に関する学校図書の印刷費についてスロバキア文部科学省から申請があったので、PHARE<sup>(60)</sup>「改定版教育

プログラム」に対してカリキュラム開発のための資金を交付した。この申請書には、歴史上の出来事を時間の経過に沿って記述したものを補助教材として使用するとあり、その教材には、カナダ、ドイツ、スロバキアの各国で教鞭をとるスロバキア出身の歴史学者が執筆した3通の推薦状が添付されていた。欧州委員会はこれらの推薦を重く見て、この著書に必要な出版助成として8万ECU<sup>(61)</sup>の交付を承認した。この著書には戦時中のスロバキアが果たした役割について誤った説明があり、また反ユダヤ主義的な内容の侮辱的な資料が含まれている旨の通報を受けた委員会は、直ちに行動を起こした。欧州委員会から責任者が出席し1991年6月25日にスロバキア外務大臣と会談し、スロバキアの学校からこの著書を至急回収するよう要請した。この要請に応えたスロバキア首相は、1997年6月27日アムステルダムにおいてこの著書を回収すると発表した。1997年7月1日、スロバキア文部科学省は、この著書が「教育課程で使用されることはない」旨の声明を出した。1997年7月2日、[スロバキア]外務大臣は欧州委員会に書簡を送り、政府の定例会議で出された問題提起を受けて文部科学省がかかる決定をした

---

ハンガリーの経済再建支援（Poland and Hungary: Assistance for the Restructuring of the Economy）」がその起源。Cf. “Briefing No 33: The PHARE Programme and the Enlargement of the European Union,” by European Parliament, in: <https://www.europarl.europa.eu/enlargement/briefings/33a1en.htm>, accessed on March 15, 2023.

(61) 脚注52参照。

---

(59) 引用は同上53頁～54頁による。

(60) EUが1982年に策定したPHAREは加盟準備国への財政支援プログラムで、「ポーランドと



旨、報告した。欧州委員会は、出版助成金の返納よりも、この著書を回収させることに努めている。欧州委員会は、本書の内容が「人種差別撤廃年 (year against racism)」の目的と原則およびその具体策に反しているものと判断する。欧州委員会は、[EUへの加盟]申請国とのあらゆる交流と協同のための事業の遂行にはコペンハーゲン理事会<sup>(62)</sup>が定めた民主主義の基準遵守が重要であることを強調するものである。スロバキアは、この基準の完全遵守を目標とし、それを達成せんとして、あらゆる努力を払いつつある<sup>(63)</sup>。

## (2) フェルディナンド・デュルチャンスキーの胸像建設問題 (2011年設置)<sup>(64)</sup>

ニジニャンスキーとボホヴァの論文(「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」)では、フェルディナンド・デュルチャンスキー (Ferdinand Ďurčanský) (1906年～1974年)の胸像建設問題も取り上げられている。

ここに、デュルチャンスキーはフリンカ・

スロバキア人民党政権時代の一時期 (1939年～1940年)、外務大臣兼内務大臣として悪意に満ちたプロパガンダで反ユダヤ・キャンペーンを張った政治家である。1939年3月18日にドイツとの間で締結された「保護条約」のスロバキア側署名人の一人でもある。(この条約の締結以降、スロバキアは外交と軍事の両面でドイツの「保護」の元に置かれ、1939年9月1日のポーランド侵攻では、ドイツの同盟軍として、スロバキア側からの侵攻作戦に参加することになった。)このデュルチャンスキーは、1940年7月に開催されたザルツブルク会談のときに、独自路線を歩もうとしたとしてヒトラーに排除され、政権から追放された。このことはすでに述べた。しかし、その後も反ユダヤ的な姿勢が変わることはなかった。また1944年8月にスロバキア国民蜂起が勃発したときには、蜂起を批判した(2003年より蜂起勃発の日(8月29日)はスロバキアでは国民の祝日になっている)。ザルツブルク会談で下野した後は一時期、コメニウス大学で教鞭をとったが、戦後、西側(オーストリア、イタリアを経てドイツ)に逃亡した。その間、国民法廷(欠席裁判)で死刑判決を受けた(1947年4月15日)。現在まで、名誉回復はなされていない。晩年はミュンヘンで戦前のスロバキア復興のための政治活動をした。

そのデュルチャンスキーの生まれ故郷のライエツ (Rajec)<sup>(65)</sup>町議会がその顕彰碑(胸像)の建設を議決した(2009年)。これを巡って、歴史学者や一般市民から批判があり、国民的

(62) コペンハーゲン理事会 (Copenhagen Council) が定めた基準 (コペンハーゲン基準) とは、「中・東欧等諸国の加盟交渉に当たり、加盟条件とされる一連の基準<sup>クワリフィカ</sup>。政治的基準(民主主義、人権、法の支配等)、経済的基準(市場経済等)など。」(「外務省 EU 関連用語集」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/keyword.html>, accessed on March 15, 2023.))

(63) 引用は、ニジニャンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳、『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第2号, 2023年9月, 54頁による。)

(64) 同上55頁以下。

(65) ジリナの南約20km, 当時の人口は約6000人。

な議論となった。しかし、2011年に、胸像の建設案は町議会を通過し、みずからが非難したあの国民蜂起にちなんだ名称が付けられた場所（スロバキア国民蜂起広場 15 番地 (Námestie Slovenského národného povstania 15)）のライエツ町立博物館 (Mestské múzeum Rajec) の前に今も建っている (図 13)。

国民的学術機関「マティツツァ・スロベンスカ (Matica slovenská)」は、19 世紀中葉 (1863 年) にスロバキアの科学・文化に関する学術の振興を目的として設置された。そこに付置された歴史研究所が主催して、1996 年にデュルチャンスキーの生誕 90 年を記念した研究会を開催したことに事は発する。この研究会に案内されたのは歴史修正主義者だけであったことから明らかなように、「研究会の終了後、主催者は、実質的にデュルチャンスキーを聖人に見立てるような集録を発行した。」<sup>(66)</sup> その集録<sup>(67)</sup> の主旨は、デュルチャンスキーの戦時下の行動を擁護・賞讃し、反ユダヤ政策を正当化することであった。この集録を拠り所として、デュルチャンスキーの生まれ故郷であるライエツ町の町議会（町長は



図 13 デュルチャンスキーの胸像

[訳注] ライエツ町立博物館，ライエツ町スロバキア国民蜂起広場 15 番地 (Mestské múzeum Rajec, Námestie Slovenského národného povstania 15, 015 01 Rajec, Slovakia)

Source: “Ďurčanský, likvidátor demokracie na Slovensku, sa narodil pred 110 rokmi” (110 年前に生まれ、スロバキア民主主義を抹殺したデュルチャンスキー), Spravodajský portál Tlačovej agentúry Slovenskej republiky (スロバキア共和国通信社のニュースポータル): <https://www.teraz.sk/magazin/ferdinand-durcansky-sa-narodil-pred-1/234075-clanok.html>, accessed on Jan. 10, 2024.

ヤーン・リバーリク (Ján Rybárik)) は、2009 年に満場一致でデュルチャンスキーの胸像建設を議決した。

これに対して、ライエツ町などの市民、宗教団体、学術団体が反対を表明した<sup>(68)</sup>。これ

(66) ニジニヤンスキー＝ボホヴァ 「1993 年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳), 『経済論集』(北海学園大学), 第 71 巻第 2 号, 2023 年 9 月, 55 頁。

(67) Štefan Baranovič (ed.), *Ferdinand Ďurčanský (1906-1974). Zborník zo seminára o Dr. Ferdinandovi Ďurčanskom, ktorý sa konal pri príležitosti jeho nedožitých deväťdesiatych narodenín v Rajeci 8. 12. 1996* [フェルディナンド・デュルチャンスキー (1906 年～1974 年) — 1996 年 12 月 8 日にライエツで開催されたフェルディナンド・デュルチャンスキー博士の生誕 90 年記念セミナーの集録—], Martin: Matica Slovenská, 1998.

(68) 建設に反対した主な団体は以下のとおり。ユダヤ教宗教団体中央連合会 (Central Union of Jewish Religious Communities), 反ファシスト戦士スロバキア連合会 (Slovak Union of Anti-Fascist Fighters), ティリア市民協会 (Tilia Civic Association), ヒューマン・ムーブメント (Human Movement) など。スロバキア科学アカデミー歴史研究所 (Institute of History of the Slovak Academy of Sciences: IH) が発表した公

を受けて、2011年3月にライエツ町は、スロバキア科学アカデミー、国民の記憶研究所、コメニウス大学、マティツァ・スロベンスカなどに勤務する歴史学者を招いて、胸像問題に関する研究会を開催した。しかし、以下に引用するスロバキア科学アカデミー歴史研究所の声明が指摘するように、そのとりまとめは衡平性を欠いていた。

F. デュルチャンスキーが賛同し、実践を通じて顕在化した政治原則は、今日のスロバキア共和国が拠って立つ民主主義の考え方と鋭く対立している。我々は、この論争[胸像の建設を巡る意見の対立]がデュルチャンスキー個人とかその胸像についてだけでなく、戦争によって国民を疲弊させたスロバキア共和国の全体主義体制をも正当化しようとして巧妙に仕組まれたものであると確信する。討論集会では、F. デュルチャンスキーの公人としての政治活動に対しては肯定的な意見よりも批判のほうが多く出された。ところが、ペーテル・ムリーク (Peter Mulík) (マティツァ・スロヴェンスカ付属スロバキア歴史研究所) の報告文書はこのときの討論集会の内容とは一致していない。このことを、我々はあえて表明するものである。胸像の除幕式を開催することは、今日の民主主義社会が拠って立つ原則の否定以外の何物でもない<sup>(69)</sup>。

式声明を支持したのは、軍事史研究所 (Military Historical Institute) (ブラチスラバ)、スロバキア国民蜂起博物館 (Slovak National Uprising Museum) (パンスカ・ピストリツァ) である。

2011年3月の地方選挙によって議員の顔ぶれは変わったが、再選された胸像建設推進派の町長リバーリクは町議会に建設の可否を諮った。その結果は13人中1人が反対しただけで、建設案が再度可決された。

この問題が起きたころのスロバキアでは、顕彰碑の建設を地方自治体が決定すれば、それを覆<sup>くつがえ</sup>することができるのは、それを決定した地方自治体 (議会) だけと定められていた。スロバキア政府は、デュルチャンスキーが、ナチス・ドイツの協力者であること、非民主的に国家を運営したこと、反ユダヤの制度化とその運用に力を貸したことなどを指摘したスロバキア科学アカデミー歴史研究所の見解を支持した。しかし、当該地方自治体は政府見解に従う義務はないし、政府には建設を阻止する権限もないとされていた<sup>(70)</sup>。こうして1944年のスロバキア国民蜂起が勃発したとき、それに反対したデュルチャンスキーの胸像は、ライエツ町立博物館が建つ「ライエツ町スロバキア国民蜂起広場15番地」に建設されることになった。この反省から、後にスロバキアでは法律改正があり、ナチス時代

(69) 引用は、ニジニヤンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学), 第71巻第2号, 2023年9月, 56頁～57頁による。

(70) スロバキア共和国政府の声明(抜粋)は以下のとおり。「地方自治体設置法の定めにより、町等の自治体の地域内における歴史的モニュメントの設置に関する決定は、当該地方自治体の権限内にある。本件の所管はライエツ町議会である。スロバキア共和国政府は、地方自治体の決定を覆すことはできない。フェルディナンド・デュルチャンスキーの人となりに関して、スロバキア共和国政府は、『デュルチャンスキーはドイツ帝国の支持者として行

と社会主義時代の政治家などの顕彰碑の建設は認められないことになった。

### (3) 司教ヤーン・ヴォイタシュチャークの列福問題（1996年手続開始）<sup>(71)</sup>

カトリック司教であったヤーン・ヴォイタシュチャーク（Ján Vojtaššák）（1877年～1965年）は、戦時中スロバキア内務省（上院）副議長に就いた。その職にある者として反ユダヤ法制的整備を推進し、反ユダヤ政策の実施について責任を負っている（1942年3月に大統領ティンが政府首脳にユダヤ人の強制移送と一人当たり500ライヒスマルクの支払いを報告した重要会議にも出席している）。みずから「アーリア化」の担い手となり、ユダヤ人が所有していた地所の接収に直接乗り出したことがある。またユダヤ人への迫害を訴えて救済を願い出たアレクサンデル・レーリンツ（Alexander Lörcinc）という名のユダヤ人の氏名を通報して、そのユダヤ人を強制収容所に移送させている。

社会主義政権下の裁判で、ヴォイタシュチャークは1951年に禁固24年の判決を受

動し……、その国家運営では非民主的な体制の強化に協力するとともに、反ユダヤ的な法規範の準備、採択、執行に協力した』とする〔スロバキア科学アカデミー〕歴史研究所の声明には疑いの余地がないものと判断している。スロバキア共和国政府は、犯罪や重大な人権侵害に関与した全体主義体制のシンボル、あるいはそれに加担した支配エリートの責任を軽く見たり、間接的にでも復讐させたりしようとする試みはいかなるものであろうとも、すべて非難する。〕（<https://www.vlada.gov.sk/vyhlasenie-vladysr-k-umiestneniu-bustyf-durcanske-ho-v-rajci/>、ただし、引用は、同上58頁による。）

(71) 以下は、主として脚注69の訳文の59頁以下による。

け、終身刑を科せられた司教ミハル・ブザルカ師（Michal Buzalka）および司教パヴェル・ゴイディッチ師（Pavel Gojdič）とともに収監され、1963年に恩赦により釈放された。1995年に、教皇ヨハネ・パウロ2世はスロバキアを訪問したときに、次のように述べた。

あなた方の中で年配の方の目には高德のヤーン・ヴォイタシュチャーク司教の姿が焼き付いています。ギリシア・カトリック教徒〔ギリシア典礼を用いるローマ・カトリック教会の信徒〕のきょうだいたちはパヴェル・ゴイディッチ司教の姿を重ねることでしょう。二人の司教はいずれもでっ上げ裁判の末に投獄されました。二人はスロバキアの教会の忠実な奉仕の証として、列福に値します<sup>あかし</sup>（72）。

生前、他の信者の模範となる信仰生活を

(72) “Pope John Paul II in Slovakia and his Speech,” <https://www.kbs.sk/obsah/sekcia/h/dokumenty-avyhlasenia/p/dokumenty-papezov/c/navsteva-svateho-otca-v-sr-1995>. ただし、引用は、ニジニャンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」（木村和範訳）、『経済論集』第72巻第2号、2023年9月、64頁による。なお、本文に引用した教皇発言に対して、「イスラエルの歴史学者5人は、ナチスと歩調を合わせていた戦時中のスロバキア政府の高官であったヴォイタシュチャークがホロコーストに積極的な役割を果たしたと主張した。」（“Around the Jewish World: Slovak Bishop’s Wartime Record Proves He’s No Saint, Historians Say,” Website of the Jewish Telegraphic Agency (JTA), <https://www.jta.org/archive/around-the-jewish-world-slovak-bishops-wartime-record-proves-hes-no-saint-historians-say>, accessed on Mar. 21, 2024.）

送った高德のカトリック教徒としてバチカンが認定した「尊者」の中から選り抜かれた信者のことを「福者」という。「列福」とは、一般に死後30年乃至50年を経て審査し、福者の称号を授与することすること、あるいは福者に認定する手続のことである。列福が済むと、さらなる審査を経て特に優れたカトリック教徒として「聖人」(イエス・キリストの教えを完全に実践した者)の称号が授与されることも珍しくない。これを「列聖」と言う<sup>(73)</sup>。

列福(福者の認定)はその後の列聖(聖者としての認定)を予想させる。プザルカ師の列福は2000年に、またゴイディッチ師の列福は2001年に始まった。なお、ゴイディッチ師は2007年にヤド・ヴァシエム(イスラエル)から「諸国民の中の正義の人」に認定された。これに合わせるかのように、1996年に「聖人の大義のための会衆(ローマ)(Congregatio de Causis Sanctorum)」の承認を経て、スピシュ司教フランティシェク・トンドラ(František Tondra)の元でヴォイタシュチャークの列福手続が始まった。2001年11月には、スロバキア全司教区における手続が完了し、「聖人の大義のための会衆(ローマ)」が列福手続を引き継いだ。このころから、スロバキアでは、ヴォイタシュチャークが福者に相応しいかど

うかが議論されるようになった。そして、聖職者ファシズムの制度化に責任があるヴォイタシュチャークは、実は「アーリア化の担い手」としてユダヤ人財産の剥奪に手を染めていたことが明らかになった。さらに、救済を求めたユダヤ人を通報し強制収容所に移送させたことも判明した。こうして、教皇聖座官房は2003年に列福の手続を主宰した司教トンドラに次のように通知した。

教皇聖座はヴォイタシュチャーク司教に対しては敬意を払っているが、当面はその列福が適当とは考えていない<sup>(74)</sup>。

現在のところ列福手続は進んでいないが、完全に取りやめになったわけではない。ニジニャンスキーは次のように述べている。

ここで取り上げた三つの事例から分かるように、20世紀についての歴史解釈に対するスロバキアの格闘は、市民社会を作り上げるための奮闘と同様に、今後とも続くであろう。戦時中のスロバキア共和国を復興させようとする勢力は、いまだにスロバキアに隠然として残った反ユダヤ主義を奉じている。反ユダヤ主義との闘いがあるところ、歴史学もまたどちらかの側に立っている<sup>(75)</sup>。

(73) 列聖にも審査がある。例えば殉教者が聖人に認定されるには、拷問に対して無抵抗を貫き棄教することなく刑死した殉教者と認められるかどうかなどの審査を要する。1920年に列聖されたジャンヌ・ダルク(Jeanne d'Arc)(1412年～1431年)のように死後約500年を経た者もある(列福は1909年)。例外とされているマザー・テレサ(Mother Teresa)(1910年～1997年)は、2003年に列福が、2016年に列聖が完了し、聖人に叙せられた。

(74) ニジニャンスキー＝ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学)、第71巻第2号、2023年9月、64頁。

(75) 同上、67頁。

## おわりに

歴史研究者とホロコースト否定論者とが法廷で対峙した例としては、デボラ・E. リップシュタットと否定論者デイヴィッド・アーヴィングとの間で繰り広げられた法廷闘争がある（1998年9月公判前審理，2000年1月裁判）<sup>(76)</sup>。本稿で取り上げたホロコーストの認識を巡るスロバキアでの論争はこれに数年先立っている。それは、具体的にはホロコースト時代についての歴史教育、存続し続けることが期待される胸像の建設、未来に亘って信仰の対象にもなりかねない人物の評価、というようなスロバキア現代社会が直面する問題を巡って行われた。これらは、ホロコーストの真実性が少しのきっかけで揺らぎかねない現代に危うさを物語っている。この意味で、本稿の「3. 歴史修正主義の台頭とそれを巡る議論」で紹介したニジニャンスキーとボホヴァの論文は、スロバキアの事例が特殊ではなく、どこの国でも起こりうることを示唆しているということでもある。二人の共同論文が、歴史修正主義を批判的に考察したデボラ・E. リップシュタットの著書<sup>(77)</sup>と並んで注目される ゆえん である。そして、いま

何故ホロコースト研究が重要であるかを教えてくれる。二人が執筆した原論文は、刊行予定の J. Brach (ed.), *United in Diversity*, Belin: Walter de Gruyter GmbH に収録されることになっているが、執筆者、編者、出版社の三者から理解を得て、その刊行に先立ち翻訳出版が許諾された。

本稿では、スロバキアで台頭した歴史修正主義者の見解とそれに対抗する主張（ニジニャンスキー他の論文）を紹介することを目的とした。しかし、そのためには、スロバキア・ホロコーストの根底にある反ユダヤ主義思想（「1. 反ユダヤ主義の4類型」）とそれに基づく反ユダヤ政策の概要（「2. 反ユダヤ政策」）を事前に述べておく必要があると考えて回り道をして、スロバキアにおける先行研究を取り上げた。歴史修正主義者の見解を際立たせるためとして諒とされることを望む。本文でも簡単に触れたように、否定論者は、虚偽にわずかな真実を交えながらフリンカ・スロバキア人民党政権下の戦前戦中の様々な反ユダヤ政策を正当化する。歪曲したり無視したりすることもある。彼らは、自己の言説の正当性が完全には認められなくても、それも一つの考え方として相対化すれば、それで良しとすることもある。ホロコーストがあったとする言説に対して、ホロコーストはなかったとする言説を対峙させて、ホロコーストを巡る論議に「ゆらぎ」を与えることを目的とすることもある。

ホロコースト否定論（歴史修正主義）に対抗するには、歴史的事実そのものを客観的に解明し、事実と虚偽を選り分けることが必要である。ニジニャンスキー他が挙げた三つの

(76) Deborah E. Lipstadt, *Denial: Holocaust History on Trial*, New York: Harper Collins Publishers LLC, 2005. (デボラ・E. リップシュタット (山本やよい訳) 『否定と肯定—ホロコーストの真実をめぐる闘い—』ハーバーコリンズ・ジャパン, 2017年。)

(77) Deborah E. Lipstadt, *Denying the Holocaust: The Growing Assault on Truth and Memory*, New York: Free Press, 1993. (リップシュタット (滝川義人訳) 『ホロコーストの真実』(上・下), 恒友出版, 1995年。)

事例のうち、デュリカの歴史教材については、欧州議会の三人の議員の質問状が教育現場での配布を阻止し、配布分については回収させることになった。教材問題のこの結末は、スロバキアにおける歴史認識のあるべき姿をEUが方向づけたものであった。ただし、デュリカのあの著作は1995年の初版以来2021年までに6回、版を改め市販されている。教材問題のときの歴史認識を巡る論争の火種はまだ残っている状況と言えよう。またデュルチャンスキーの胸像建設とヴォイタシュシャークの列福については、その批判の過程で、戦前戦中の聖職者ファシズム国家における二人の元政府要人としての事績が詳らかにされた。胸像については「法の壁」によって建設中止には至らなかったが、その問題を契機にして法改正があつて<sup>(78)</sup>、今後のあり方に対して成果があつたと見るべきであろう。またヴォイタシュシャークの列福問題に対しては、現在のところ取り下げがあつたとは言われていないようであり、手続が再開される

可能性を残してはいるが、『我らの時代』(1965年)の精神が生き続き、宗教レベルの反ユダヤ主義の歯止めとして機能するならば、列福手続が再開されることはありえないのではあるまいか。

スロバキアでは、それまで敬遠されていたホロコースト研究が、特に1993年以降飛躍的に進められた。研究者の数が増えて、研究分野が多様化し、それぞれの分野で着実な成果が挙げられた<sup>(79)</sup>。これらの研究者たちは、被害規模を客観化すること(被害を誇大に見せかけたり過小に見せかけたりしないこと)、被害者側の抵抗を美化するあまり、その成果を事実以上に誇大化しないことを徹底した。その結果、歴史的事実に関する史料の編纂とその分析、関係者への聞き取り、現地調査などが積み重ねられて客観的事実が解明するという成果が挙げられた。スロバキアにおける多面的重層的なホロコースト研究は、今後も多くの成果を挙げるものと期待される。

(2024年5月20日提出)

(78) 「2020年、スロバキア共和国国会は、二つの時代(問題ある歴史を刻んだ共産主義支配の時代(1948年~1989年)と1939年~1945年の時代[スロバキア共和国の時代])のエピソードと国民全体に共通する道義心との間に齟齬がないようにするために、法律を改正した。これにより記念碑や街路には、いずれの全体主義体制を代表する者の氏名を付けることができなくなった。」(ニジニャンスキー=ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学)第71巻第2号,2023年9月,59頁。)上記の引用文における「法律」とは次を指す。Ktorým sa mení a dopĺňa zákon Národnej rady Slovenskej republiky č. 125/1996 Z. z. o nemorálnosti a protiprávnosti komunistického systému a ktorým sa menia a dopĺňajú niektoré zákony [共産

主義体制の非人道性と非合法性に関する法律(1996年法律第125号)を改正する法律](2020年法律第338号,2020年11月4日制定,2020年12月1日施行), in: Website of the SloV-Lex, Ministerstvo spravodlivosti Slovenskej republiky [スロバキア共和国法務省], <https://www.slovlex.sk/SK/ZZ/2020/338/>, accessed on May 18, 2024.

(79) その分野は、公文書の整理編纂、回想録の出版、マイノリティ(ユダヤ人)の視点からの分析、ドイツ側の干渉、ホロコーストの社会的背景、反ユダヤ法制、<sup>オーラ・ヒストリー</sup>口述史料、ホロコーストの全体像など、多岐に亘る。これについては、ニジニャンスキー=ボホヴァ「1993年スロバキア共和国樹立後における歴史学と一般市民によるホロコーストの認識について」(木村和範訳)、『経済論集』(北海学園大学),第71巻第2号,2023年9月,41頁。